

伊勢を創った
太田小三郎？
ご存知ですか？

伊勢を創った太田小三郎シリーズ

第1回 小三郎は伊勢で何を創ったのか？

第2回 小三郎は伊勢をなぜ創れたか？

第3回 小三郎が創った伊勢の「参宮鉄道」

最終回 小三郎が創った伊勢の「路面電車」

と 朝熊登山電車

1895明治28年 太田小三郎(49歳)・秋田喜助(35歳)らが電力会社の設立を發起
市内の電灯用電力供給を目的に、宮川での水力発電を計画



宮川視察か？



1896明治29年宮川電気(株)設立 明治30年営業開始(津電灯・四日市電灯開業)

水力発電と電鉄の許可は下りず、火力発電による電灯事業のみの営業に切り替えて事業が発足

事務所兼発電所を岩渕町(現、中部電力(株)伊勢営業所)に移設

初代社長 秋田喜助

敷地内に100馬力のボイラー1台と50キロワットの発電機1台を設置して

「**岩渕第一発電所**」とした 燃料の石炭は勢田川の水運で運ばれた

電力供給開始 市内に電灯781個が点灯

(需要家数450戸電灯数1786個)

1904明治37年 「**岩渕第二発電所**」内に電車運転用直流70kwの発電機を増設

1906明治39年 需要家数707戸電灯数2438個

1907明治40年 社長太田小三郎 副社長秋田喜助となり

電灯供給地域を四郷村・浜郷村に拡張

1908明治41年 電灯供給地域を二見町に拡張

1910明治43年 岩渕第二発電所に300kwの電灯用発電機を増設

1911明治44年 電灯供給地域を大湊町・神社町に拡張

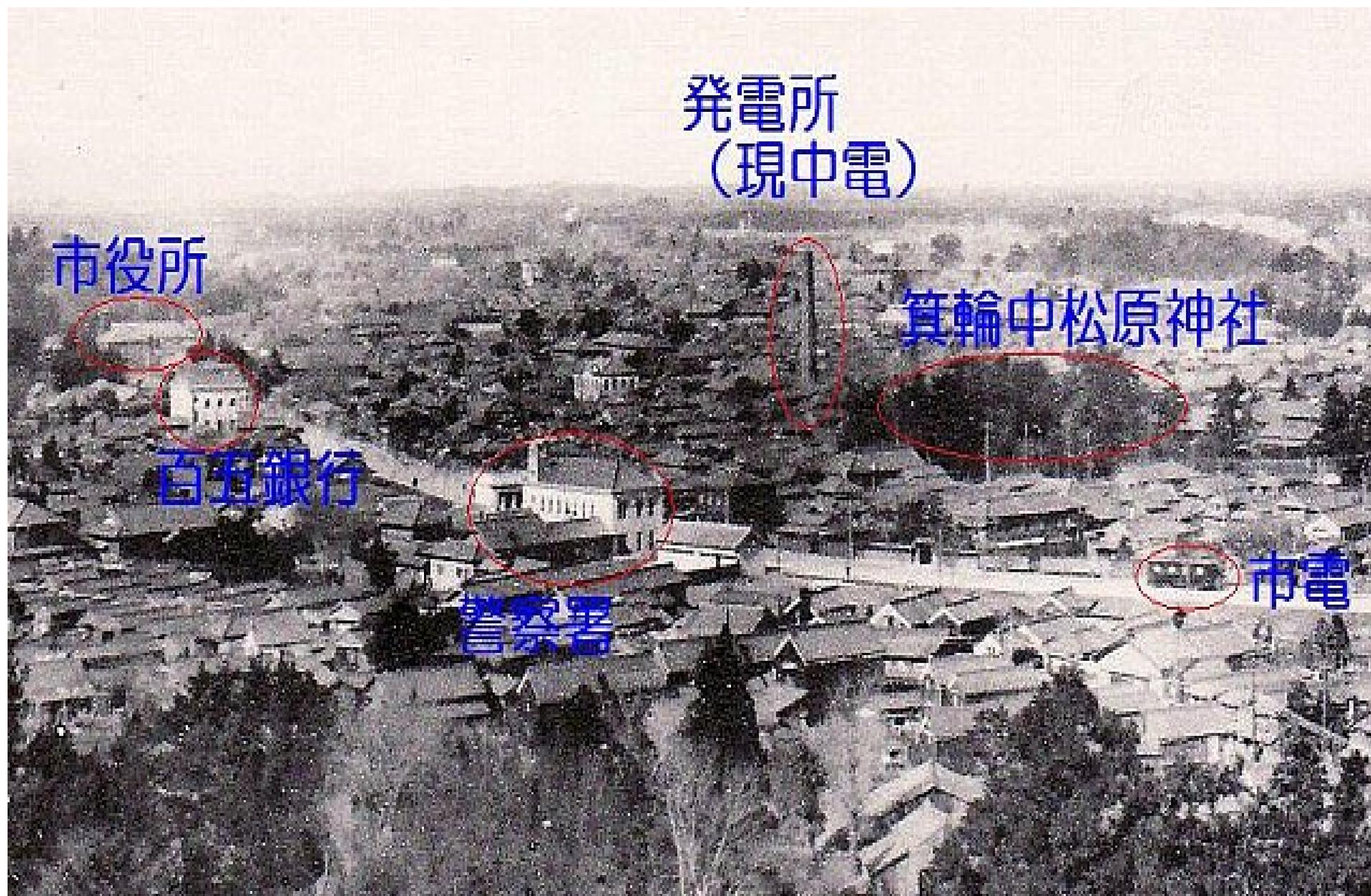
電力部門の歴史

1878明治11年	日本初電灯ともる
1886明治19年	東京電灯開業
1890明治23年	名古屋電灯開業
1895明治28年	太田小三郎(49歳)・秋田喜助(35歳)ら が 市内電灯の供給を目的として電気会社の設立を発起 琵琶湖疏水による水力発電により京都市電開業
1896明治29年	宮川電気(株) 設立 水力発電と電鉄の許可は下りず、 電灯事業のみ火力発電による営業に切り替えて事業が発足
1897明治30年	営業開始 初代社長 秋田喜助 津電灯・四日市電灯開業 事務所兼発電所を岩渕町(現、中部電力(株)伊勢営業所)に移設 敷地内に100馬力のボイラー1台と50キロワットの発電機1台を設置し て「岩渕第一発電所」とした 燃料の石炭は勢田川の水運で運ばれた 市内に電灯781個を点灯(需要家数450戸電灯数1786個)
1903明治36年	伊勢電気鉄道(株) と改称
1904明治37年	電車運転用岩渕第二発電所内に直流70kwの発電機を増設
1906明治39年	需要家数707戸電灯数2438個
1907明治40年	伊勢電気鉄道(株) 社長太田小三郎 副社長秋田喜助となる 電灯供給地域を四郷・浜郷両村に拡張
1908明治41年	電灯供給地域を二見町に拡張

1910明治43年	第二発電所に300kwの電灯用発電機を増設
1911明治44年	電灯供給地域を大湊神社両町に拡張
1916大正05年	太田小三郎 伊勢電気鉄道(株)社長として死亡(享年70歳)
1918大正07年	太田光熙 伊勢電気鉄道(株)社長就任
1919大正08年	大同電力(旧大阪送電 初代社長福沢桃介)設立 太田光熙常務取締役役に就任
1921大正10年	関西電気(株)設立 1922大正11年東邦電力(株)に改称
1922大正11年	津電灯(株)・松阪電気(株)と合併して三重合同電気(株)となる
1924大正13年	太田光熙三重合同電気(株)社長に就任
1928昭和03年	大同電力代表取締役副社長に就任
1930昭和05年	合同電気(株)に改称 社長太田光熙(京阪電鉄(株)社長兼務)
1937昭和12年	合併して東邦電力(株)(元 関西電気(株))になる 太田光熙副社長に就任
1939昭和14年	国策によって電力事業と運輸事業を分離された
1942昭和17年	東邦電力(株)は解散し5社に分割された 日本発送電 中部配電、関西配電、四国配電、九州配電
戦後	中部電力(1951昭和26年設立)、関西電力、四国電力、九州電力に継承

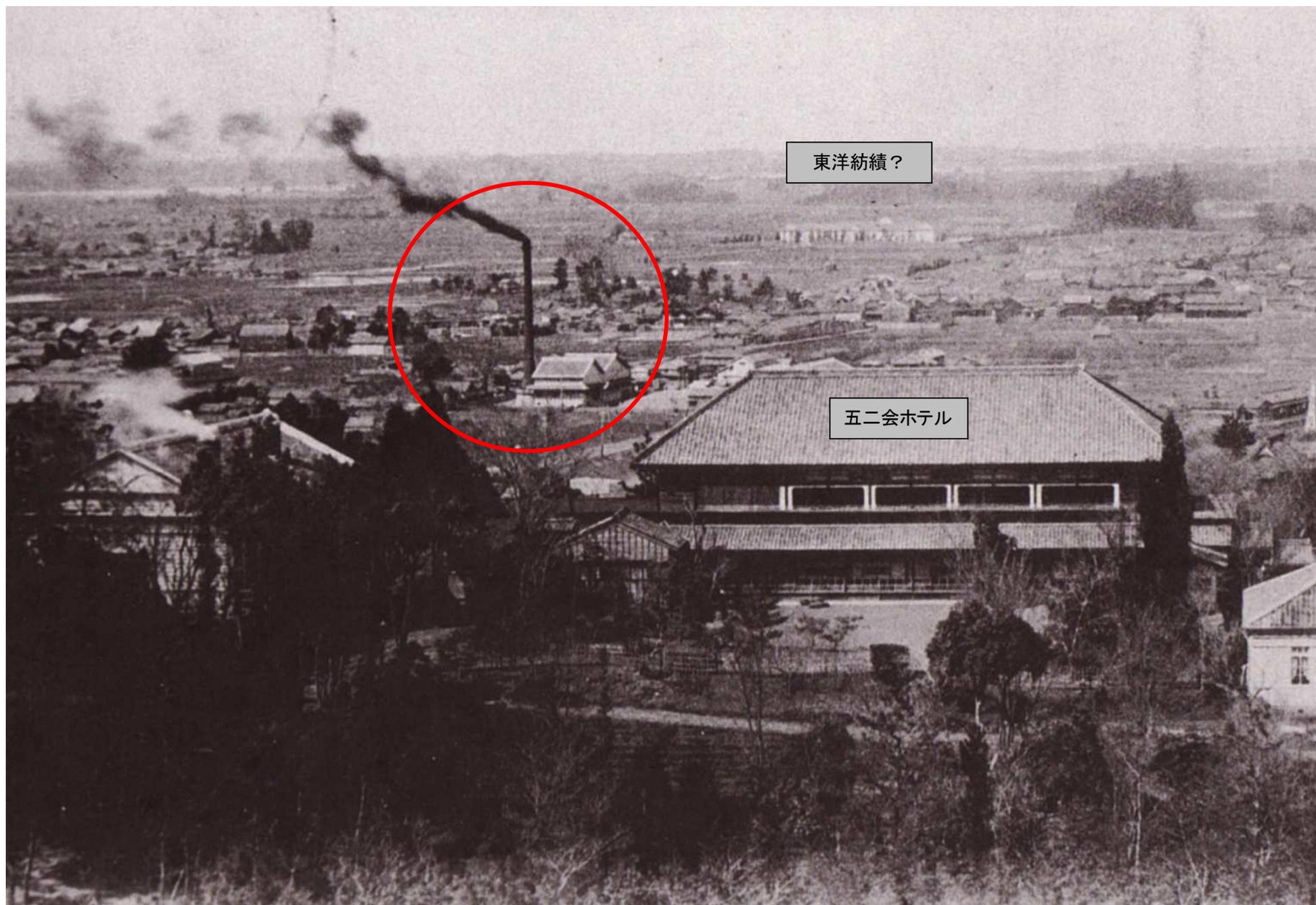
次は発電所のある風景です

岩渕第1発電所 岩渕町1丁目 宮川電気(株)本社内(旧、中部電力伊勢営業所)



箕輪中松原神社 みのなかまつばら-じんじゃ

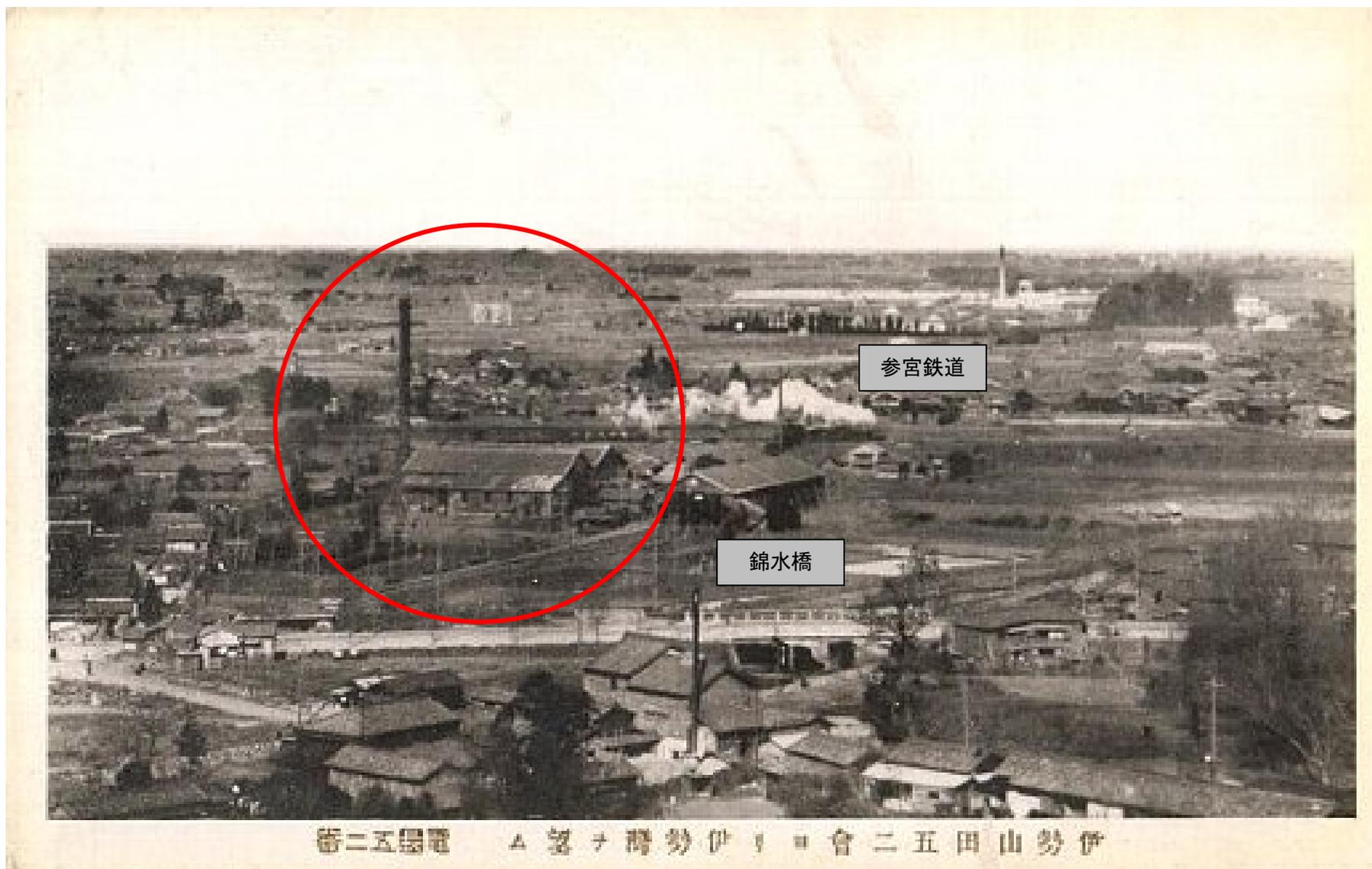
岩瀨第2発電所 岩瀨町2丁目 路面電車岩瀨車庫(錦水橋操車場)内



東洋紡績?

五二会ホテル

岩渕第2発電所 岩渕町2丁目 路面電車岩渕車庫(錦水橋操車場)内

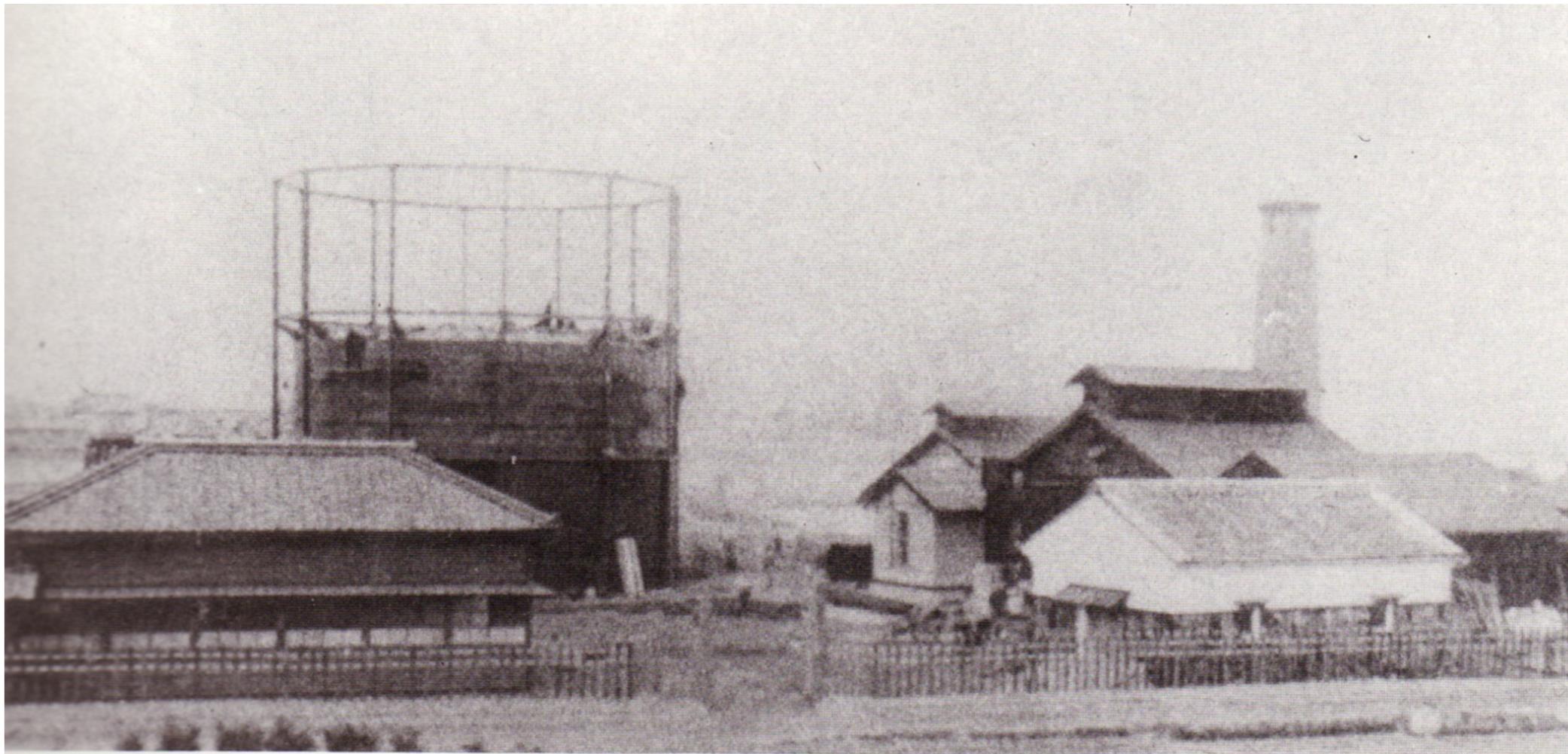


伊勢山田五二會より伊勢湾を望む 電(長)五二番

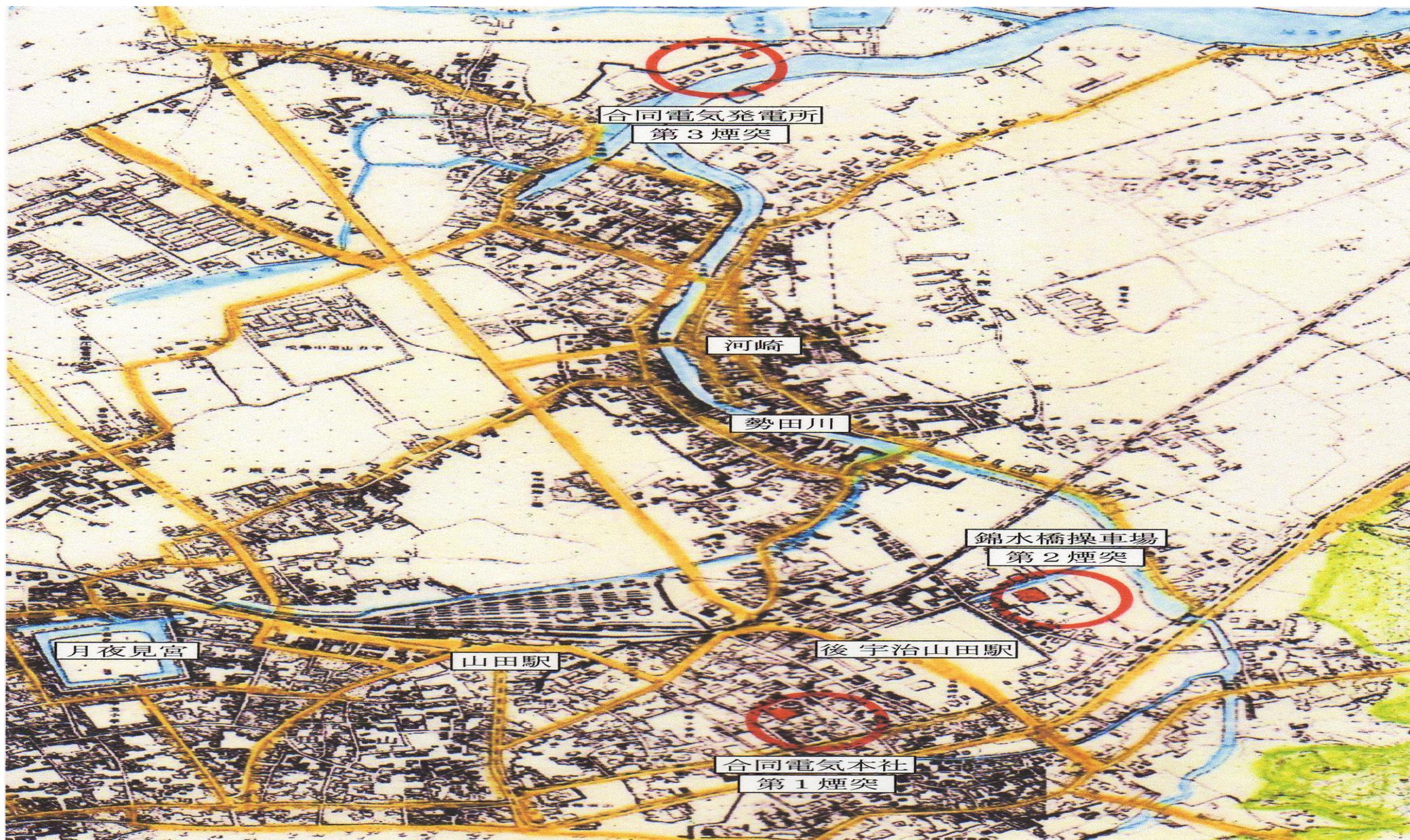
1911明治44年 山田～鳥羽間が国鉄線として開業し全通しているので明治44年以降の写真？

第3発電所？ 船江2丁目 合同瓦斯→東邦ガス(現在)

詳細不明・・・、合同瓦斯の設立は1930昭和05年合同電気(株)に改称した頃か？



宮川電気の発電所は3つあったのではないか？



1903明治36年宮川電気(株)は
電気鉄道としては「日本で7番目」、
路面電車としては「日本で3番目」の
本町～二見間を開通させました。
そして、伊勢電気鉄道(株)と改称
太田小三郎社長が就任

- ①①京都電気鉄道…京都市電
- ②②名古屋電気鉄道…名古屋市電
- ③大師電気鉄道…川崎大師線
- ④小田原電気鉄道…小田急線
- ⑤豊州ほうしゅう電気鉄道
- ⑥江之島電気鉄道…江ノ島線

路面電車部門の歴史

(①電車の開通順位 ①路面電車の開通順位)

1893明治26年	参宮鉄道(株)開業
1895明治28年	①①京都電気鉄道(京都市電)開通 太田小三郎(49歳)・秋田喜助(35歳)らが 市内電灯の供給を目的として電気会社の設立を発起
1896明治29年	宮川電気(株)設立
1897明治30年	営業開始 初代社長 秋田喜助 津電灯・四日市電灯開業 敷地内に発電機を設置し市内に電灯781個を点灯 以後、配電を拡大
1898明治31年	②②名古屋電気鉄道(名古屋市電)開通
1899明治32年	③大師電気鉄道開通
1900明治33年	④小田原電気鉄道、⑤豊州電気鉄道開通
1901明治34年	本町一二見間軌道起工認可
1902明治35年	着工 ⑥江之島電気鉄道開通
1903明治36年	本町～二見間開通 ⑦③伊勢電気鉄道(株)と改称 太田小三郎社長に就任
1905明治38年	山田～本町間開通
1906明治39年	古市口～宇治間開通
1907明治40年	中山～二軒茶屋間開通 参宮鉄道国有化
1909明治42年	外宮前～古市口間開業
1910明治43年	御幸道路竣工(神苑会)
1914大正03年	宇治～内宮前間開業

1916大正05年	太田小三郎 伊勢電気鉄道(株)社長として死亡(享年70歳)
1918大正07年	太田光熙 伊勢電気鉄道(株)社長就任
1920大正09年	朝熊登山鉄道(株)設立
1922大正11年	津電灯(株)・松阪電気(株)と合併して三重合同電気(株)となる
1924大正13年	太田光熙 三重合同電気(株)社長に就任
1925大正14年	朝熊登山鉄道(株) 営業開始
1928昭和03年	朝熊登山鉄道(株)は三重合同電気(株)に合併 朝熊線となる
1930昭和05年	合同電気(株)に改称 社長太田光熙(京阪電鉄(株)社長兼務)
1933昭和12年	合併して東邦電力(株)になる 太田光熙副社長に就任 電力部門は東邦電力の経営となる
1939昭和14年	太田光熙没 国策によって電力事業と運輸事業を分離され、電車部門は神都交通の経営となる
1944昭和19年	朝熊線を休止 三重県下の鉄道・バス事業を統合して三重交通が発足 三重交通神都線となる
1945昭和20年	太平洋戦争終戦 三重交通神都線として運行
1961昭和36年	神都線を全廃 バスに転換
1962昭和37年	朝熊線を廃止

社名の変遷

1897明治30年	6年間	宮川電気(株)設立	
1903明治36年	19年間	伊勢電気鉄道(株)と改称	
1922大正11年	8年間	津電灯(株)・松阪電気(株)と合併して三重合同電気(株)となる	
1930昭和05年	7年間	合同電気(株)に改称	
1937昭和12年	5年間	合併して東邦電力(株)(元 関西電気(株))になる	
1939昭和14年	2年後	国策によって電力事業と運輸事業を分離される	
		電力部門	電車部門
		東邦電力(株)の経営となる	神都交通(株)の経営となる
1942昭和17年		東邦電力(株)は解散し5社に分割 日本発送電 中部配電、 関西配電、四国配電、九州配電	
1944昭和19年		三重交通(株)発足 三重交通(株)神都線となる	
戦後		中部電力(1951昭和26年設立)、 関西電力、四国電力、九州電力 に継承	三重交通神都線として運行

路面電車の駅をお話する前に余談ですが……「停車場」・「停留場」と「駅」

1872明治05年 新橋・横浜間鉄道路線開通(日本初)

1877明治10年代頃から鉄道車両が停車できる施設を「停車場」と総称したが、概して、

「停車場」は、分岐器・信号機がある施設

「停留場」は、それらがなく、主に旅客の乗降のみを目的とする施設

あるいは、一般的にバス・路面電車など鉄道以外の公共交通機関の旅客乗降場所

と区別していたが、いずれも曖昧である。

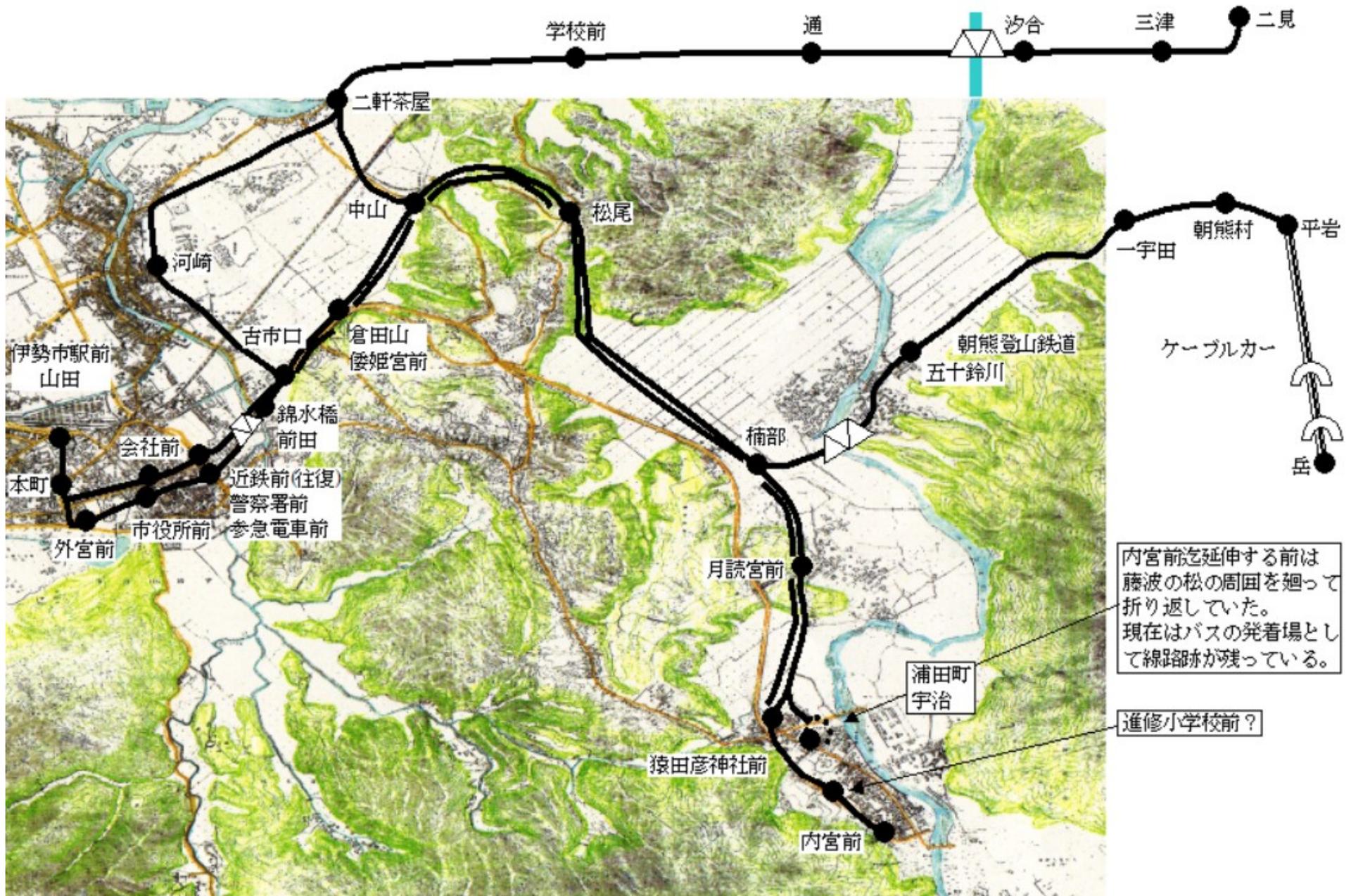
鉄道開業以前は、街道の宿場を指して「駅」と称していたがその機能は鉄道に取って代わられ、

明治中頃までに(NHKでは、**大正時代から**)一般利用者は「停車場」を「駅」というようになった。

1936昭和11年、鉄道省は「停車場」を「駅」と称することとした

が、今でも「停車場」という言葉も使われている。

路面電車部門 路面電車とケーブルカー路線図



1903明治36年 本町～二見間開通

本町—会社前—警察署前—前田(錦水橋)—古市口
—河崎—二軒茶屋—学校前—通—汐合—三津—二見

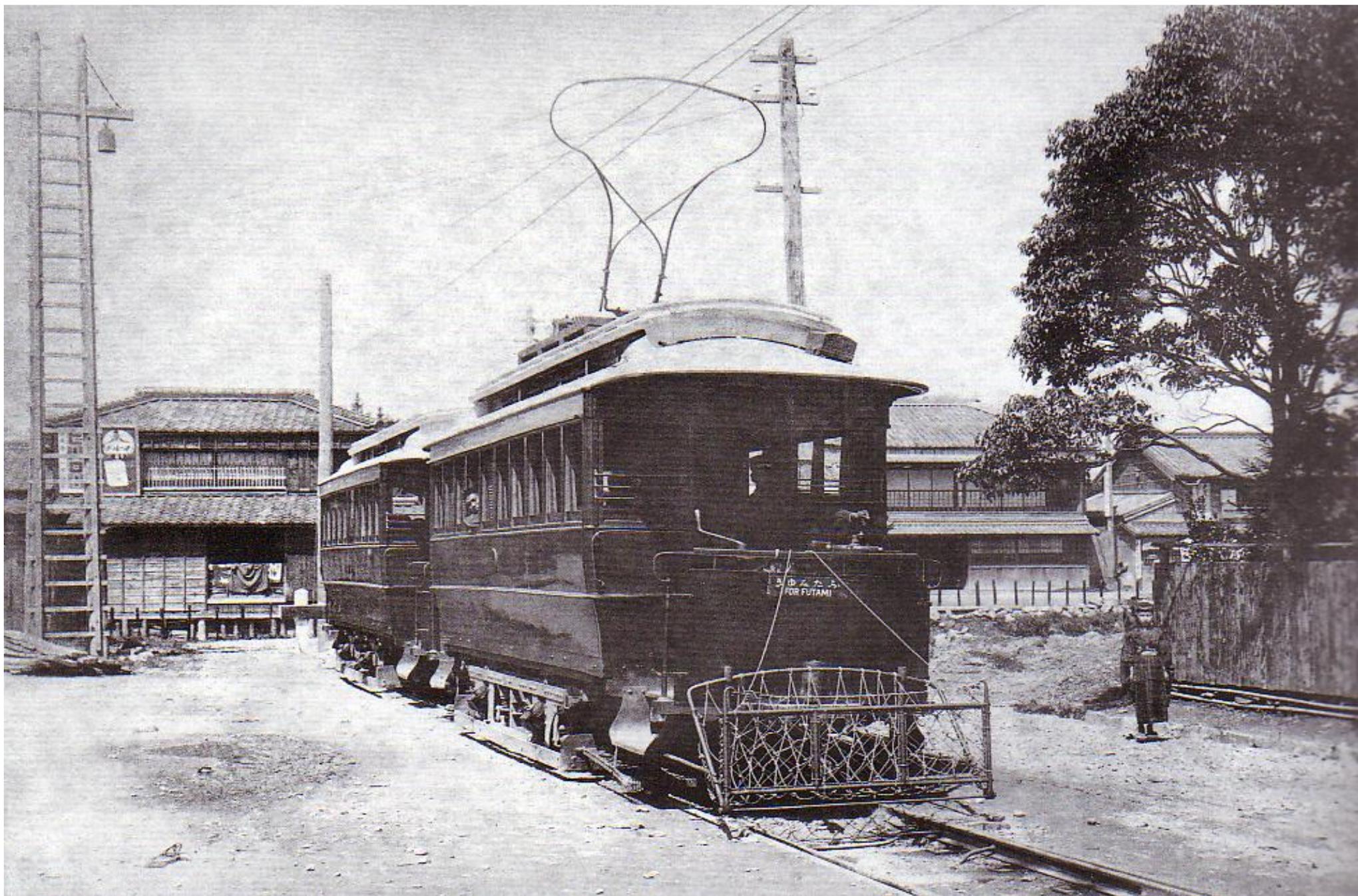
明治43年御幸道路竣工

本町





裏通り



明治36年頃



昭和15年前後

会社前そば吃驚びっくり世古交差点



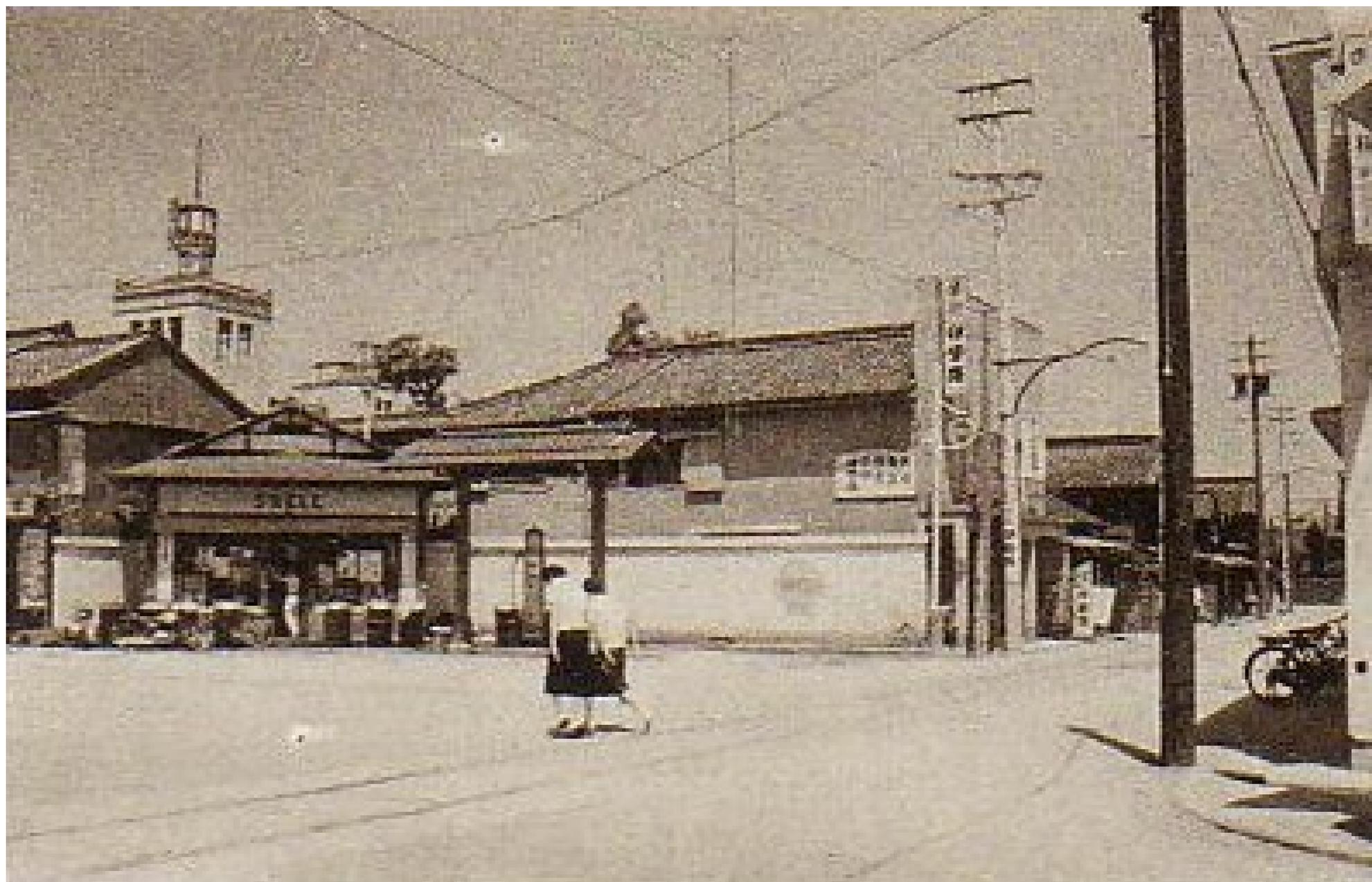
現、商工会議所

→現、中部電力出張所

会社前（第1発電所）

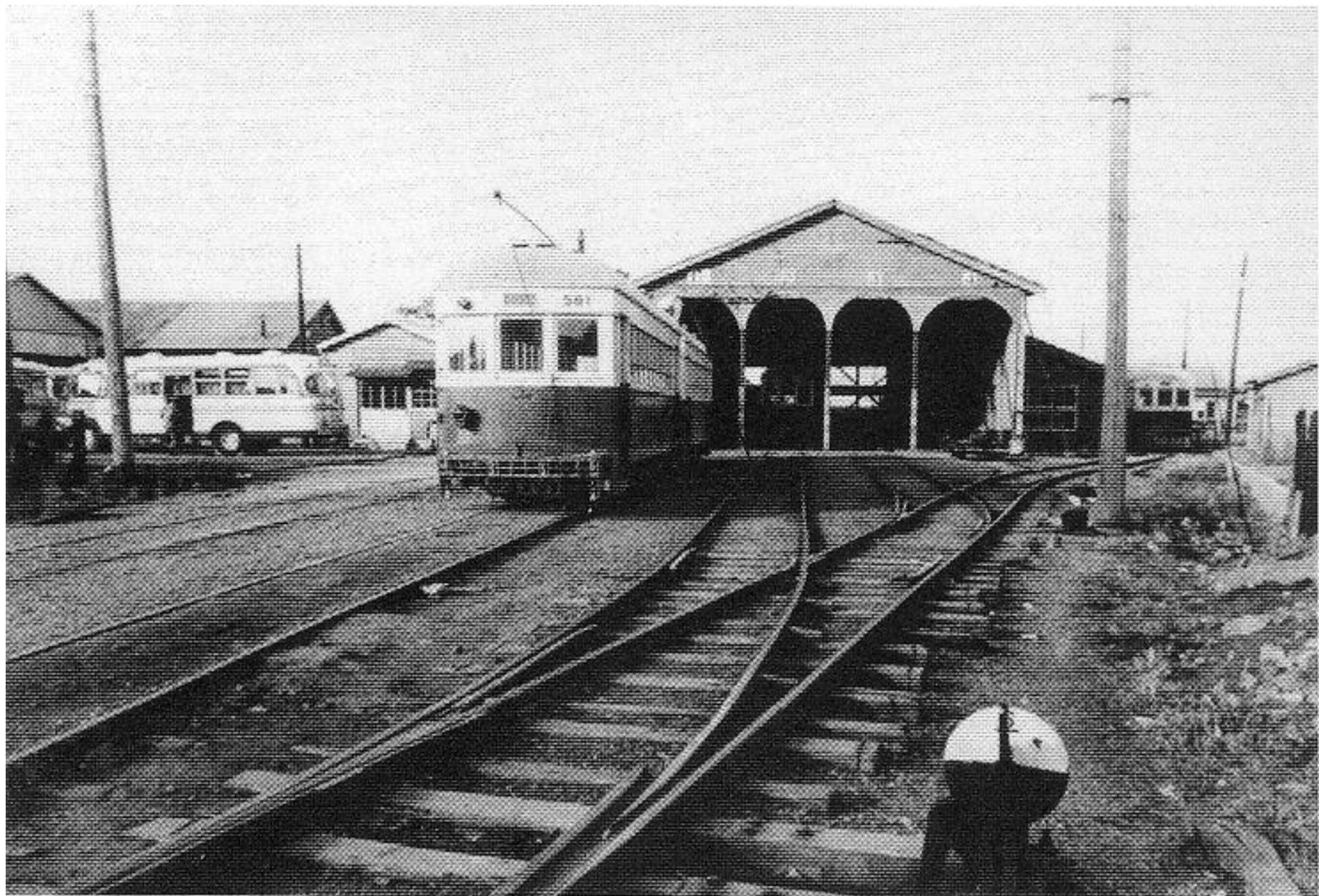


警察署前→参急電車前→近鉄前 往路(御幸道路) 復路(裏通り)

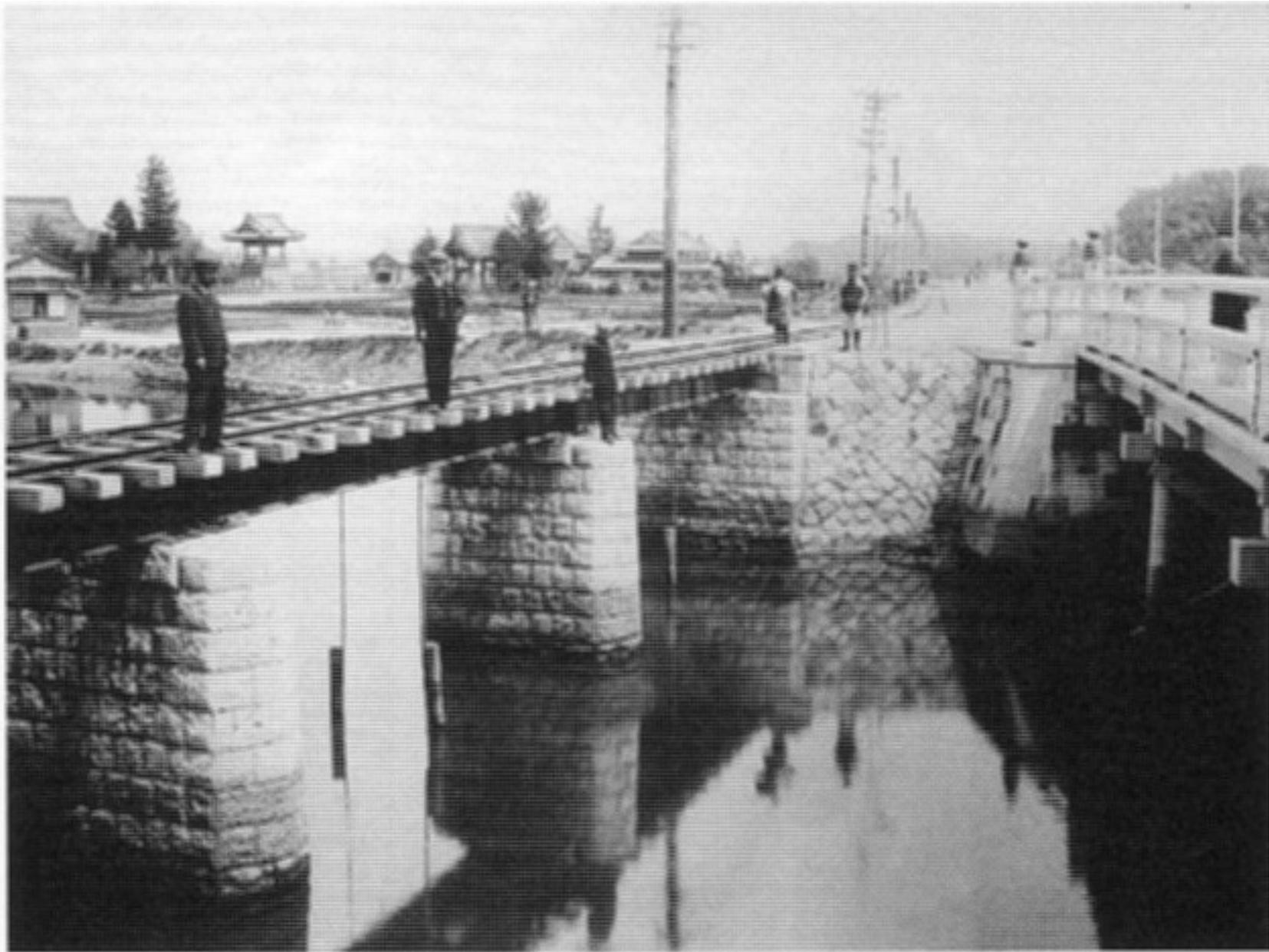


岩 湊 車 庫 (錦水橋操車場 第2発電所)





錦水橋鉄橋



明治40年代

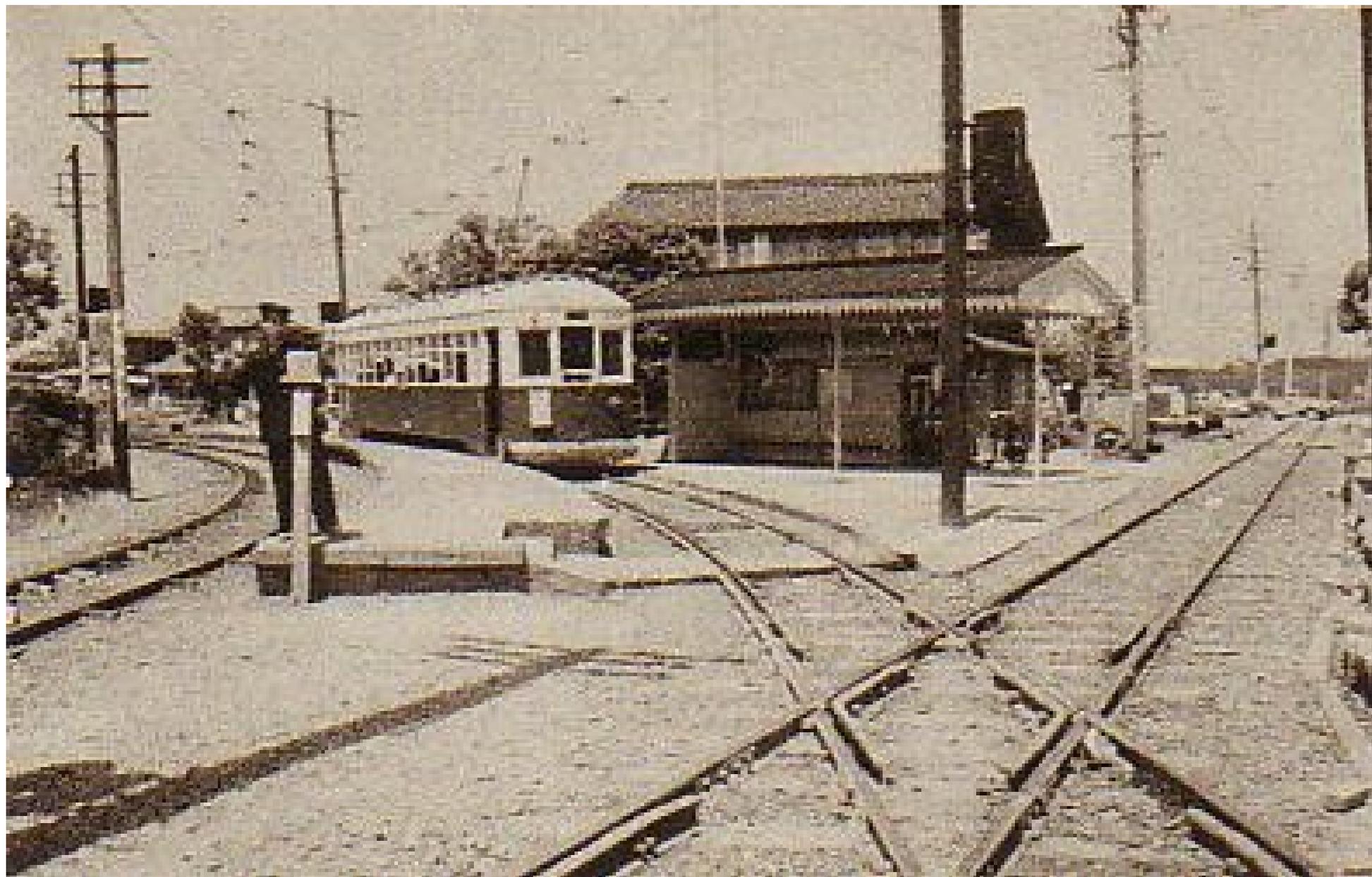


前田→錦水橋 に改称したが停車場の写真はない



光明寺前

古市口ダイヤモンドクロッシング

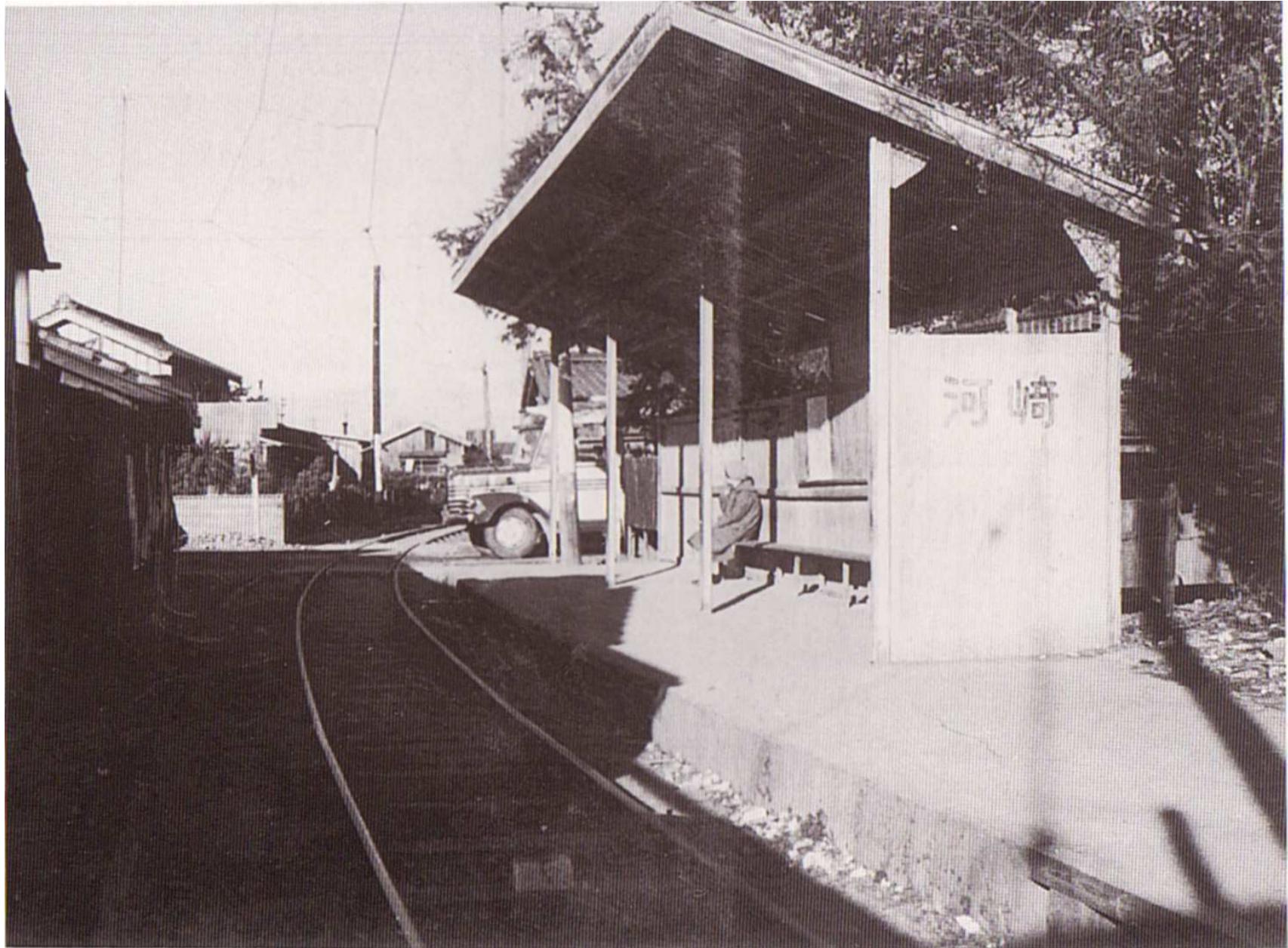


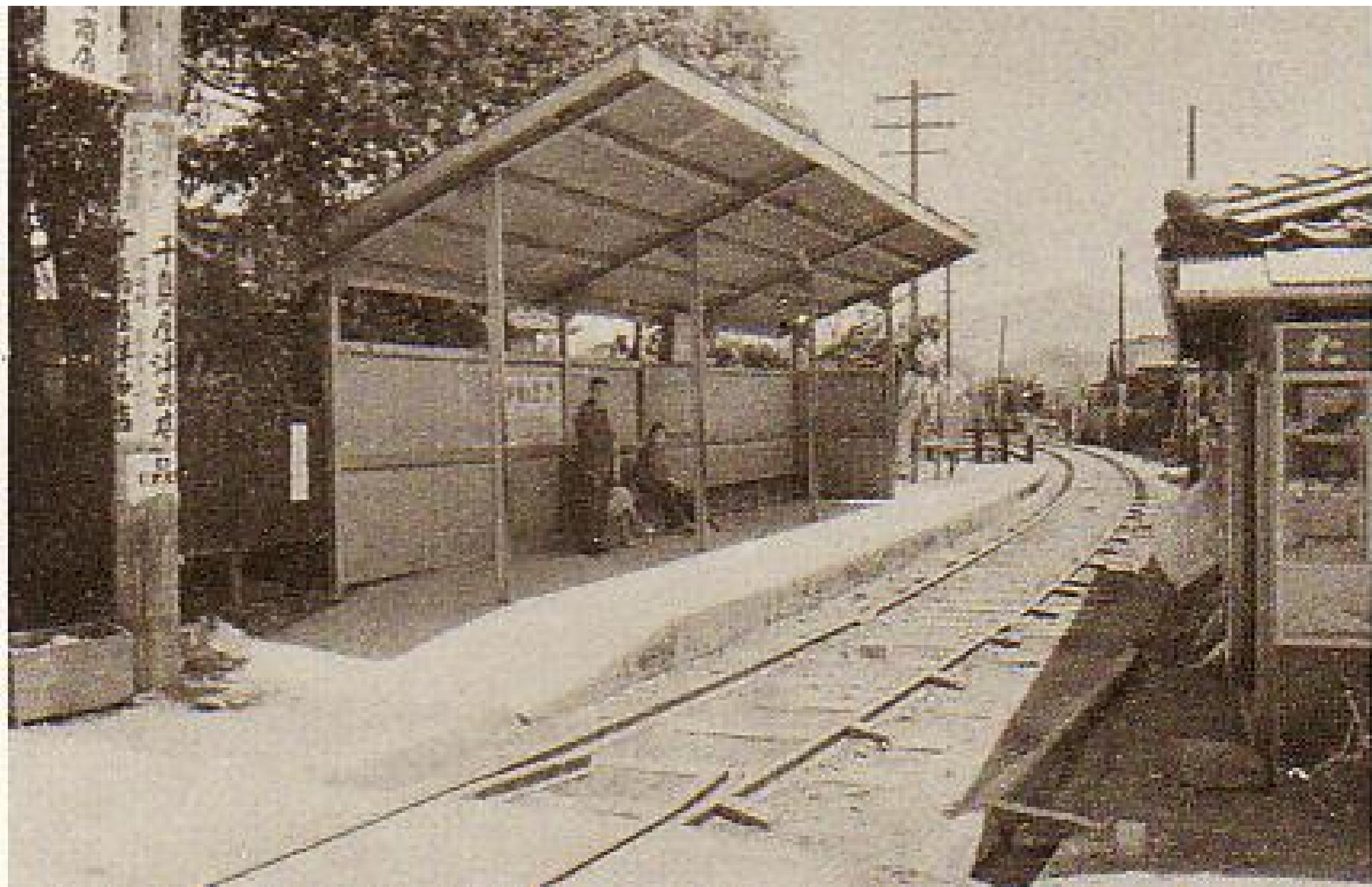
現 赤心門寺正寿院付近

参宮鉄道との交差陸橋(現在)



河崎





左手に河崎停留所がある

河崎中橋方向を望む



昭和35年頃

二軒茶屋 保線区電気区









(浜郷小) 学校前





通

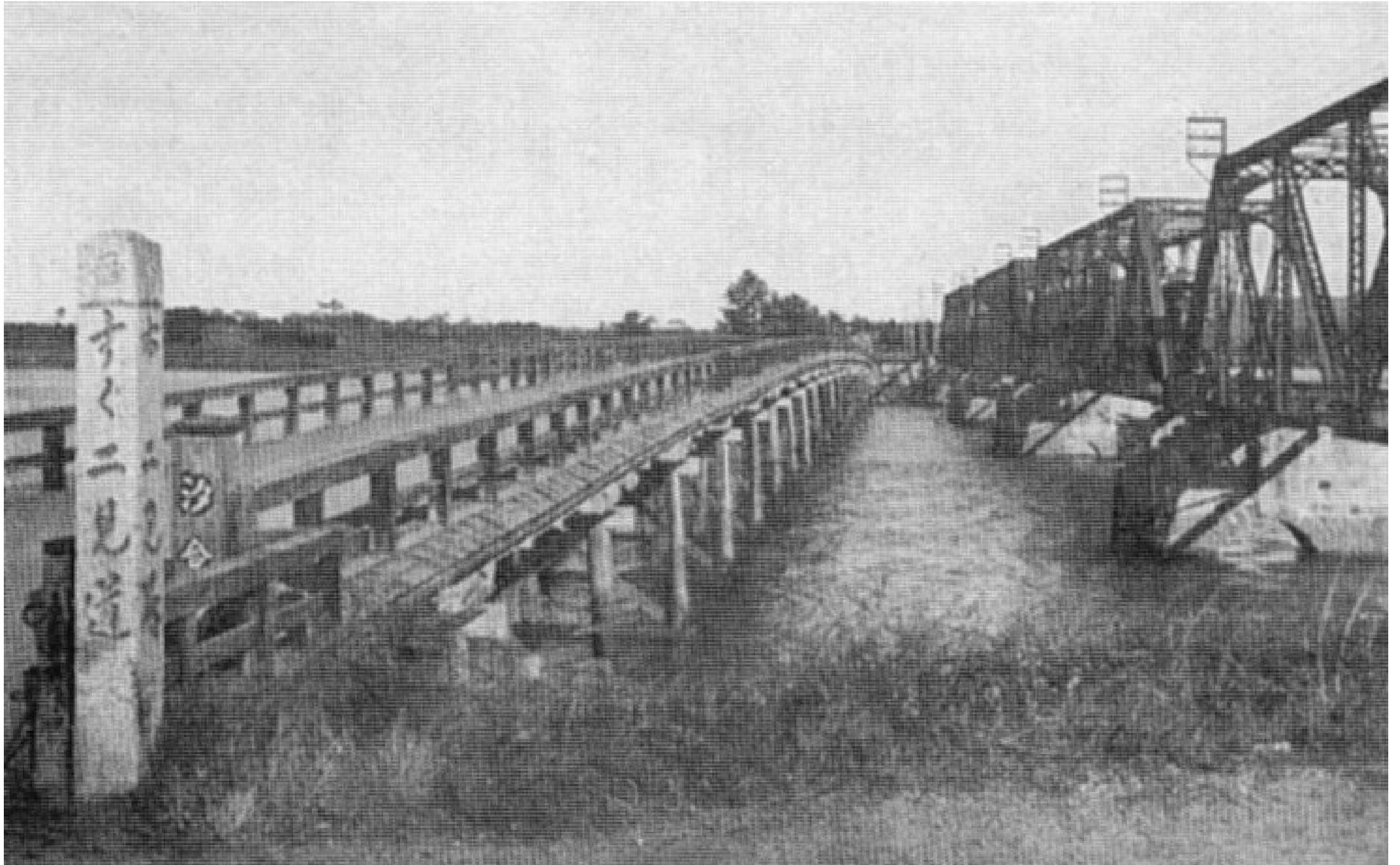


汐合 ~ 通



汐合鉄橋





昭和初期

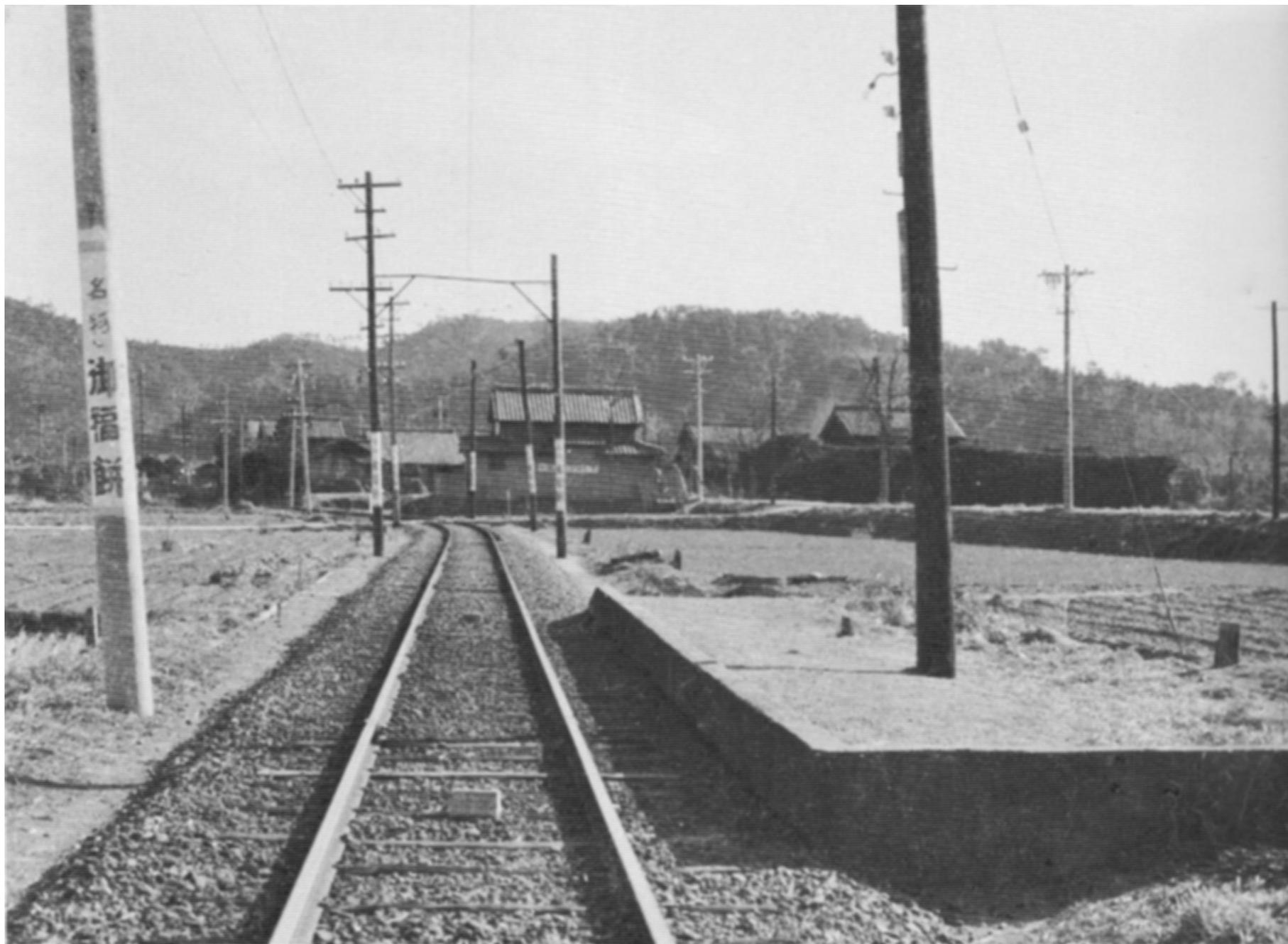
汐合 対向車の待合所





三津





二見



1887明治20年寶日館開館 1903明治36年 本町～二見間開通



昭和35年



1905明治38年 山 田～本 町 開通

山田停車場



油屋

松嶋館(明治44年出店)

神風館

宇仁館



国鉄伊勢市駅前で折り返した神都線。奥に伊勢市駅の駅舎が見える。〈伊勢市本町・昭和35年・提供＝伊勢市〉

昭和35年

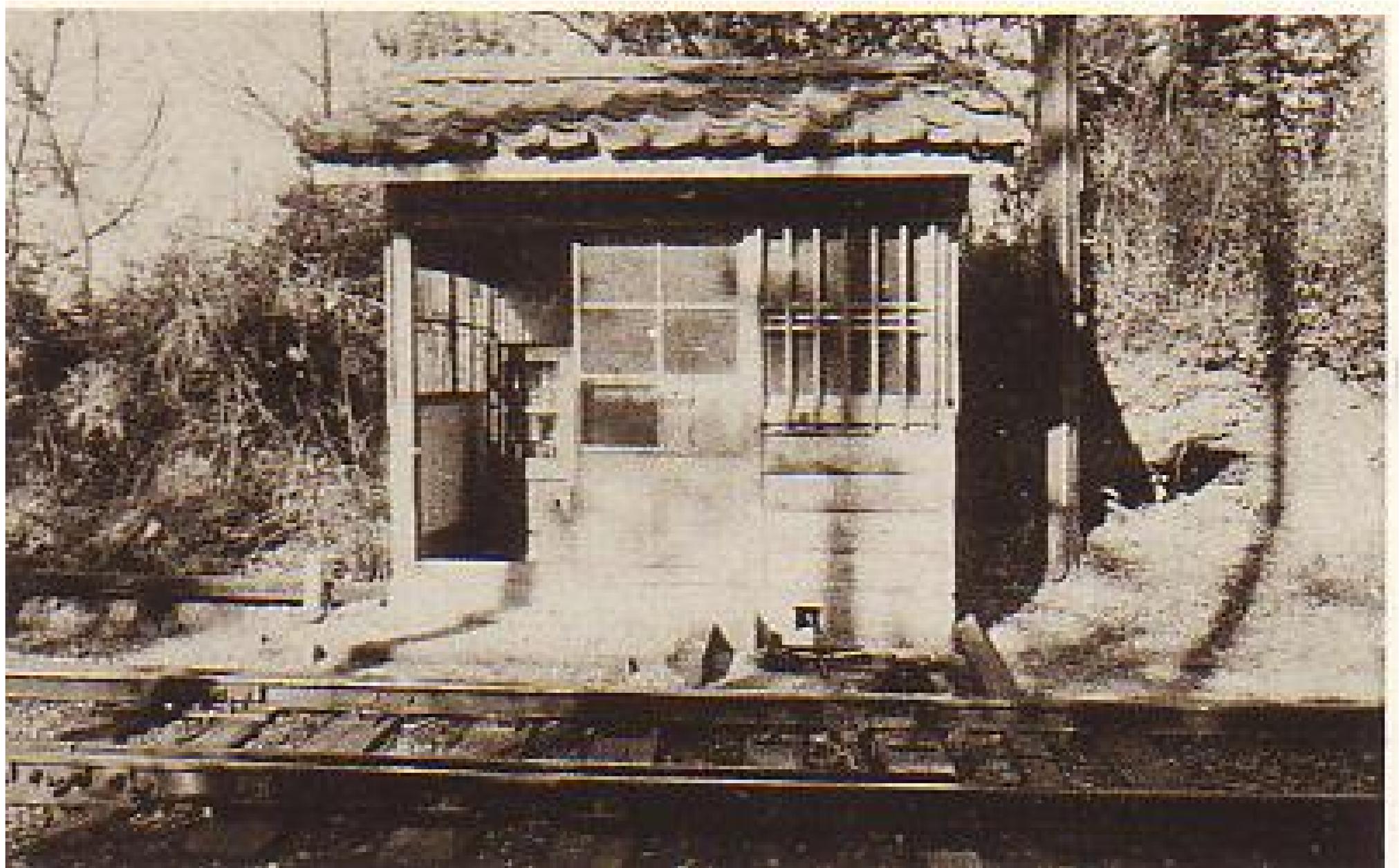
1906明治39年 古市口～宇治 開通

(古市口)－中山－松尾－楠部－月読宮前－浦田町(宇治)

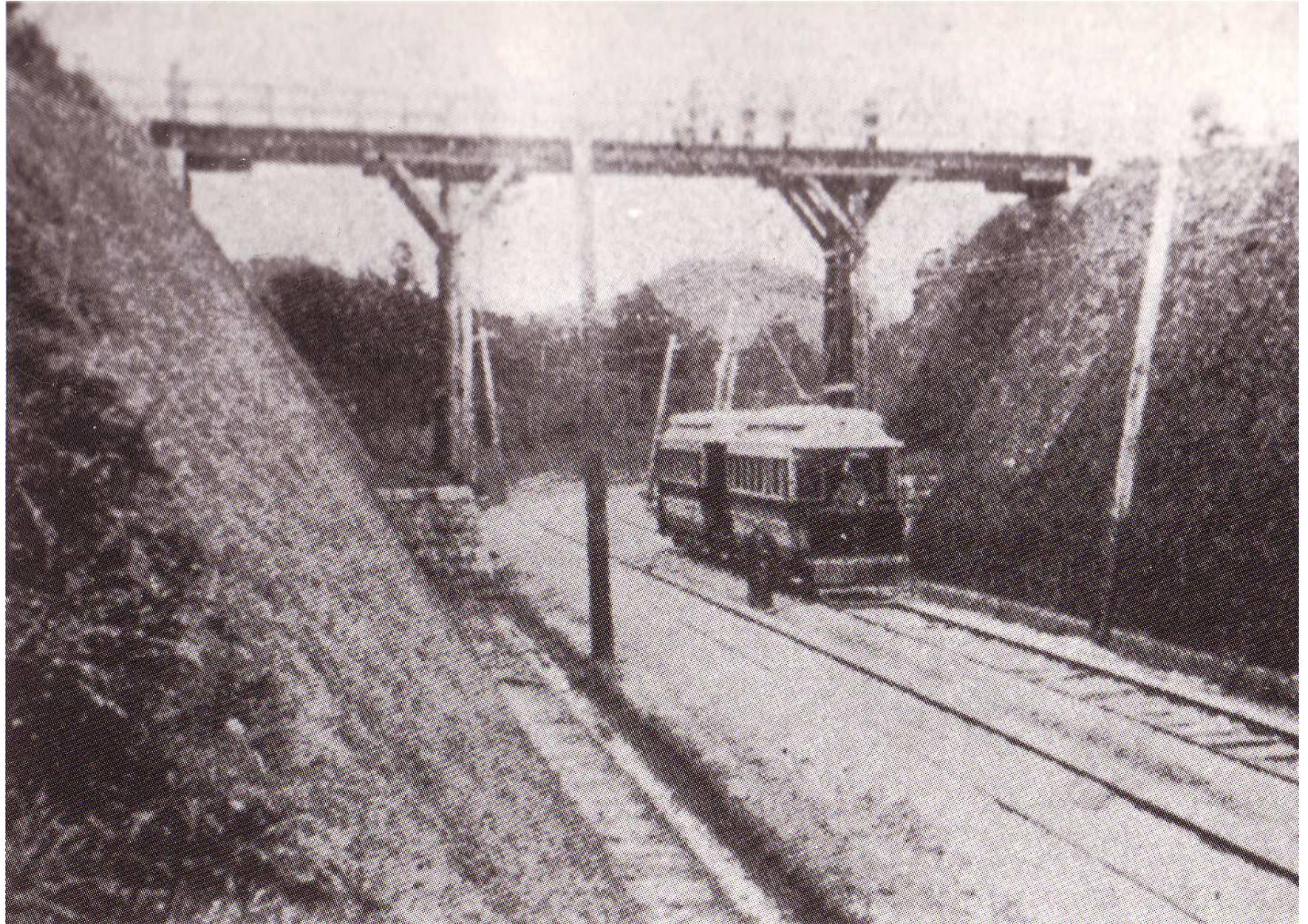
中山変電所

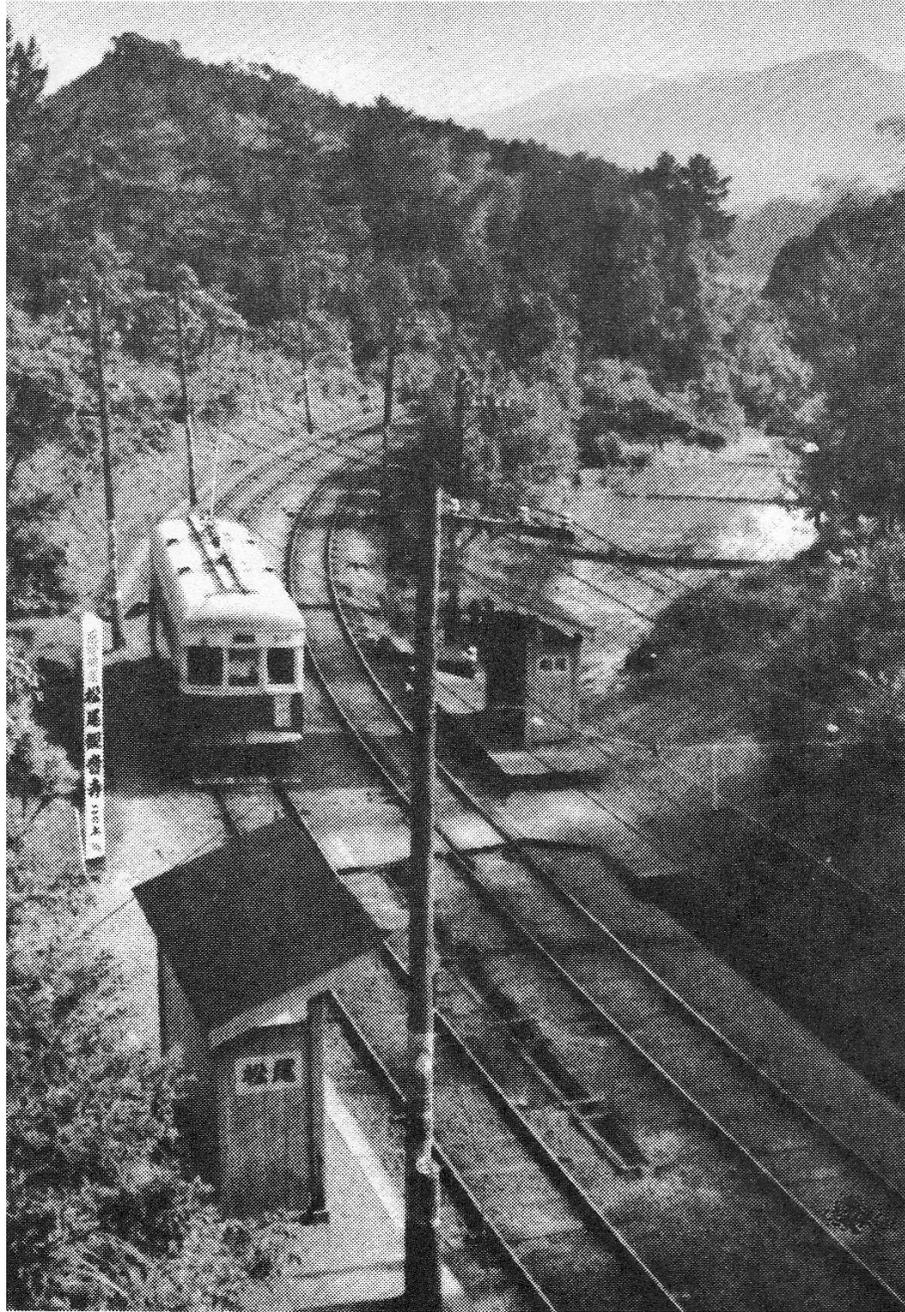


中山信号所

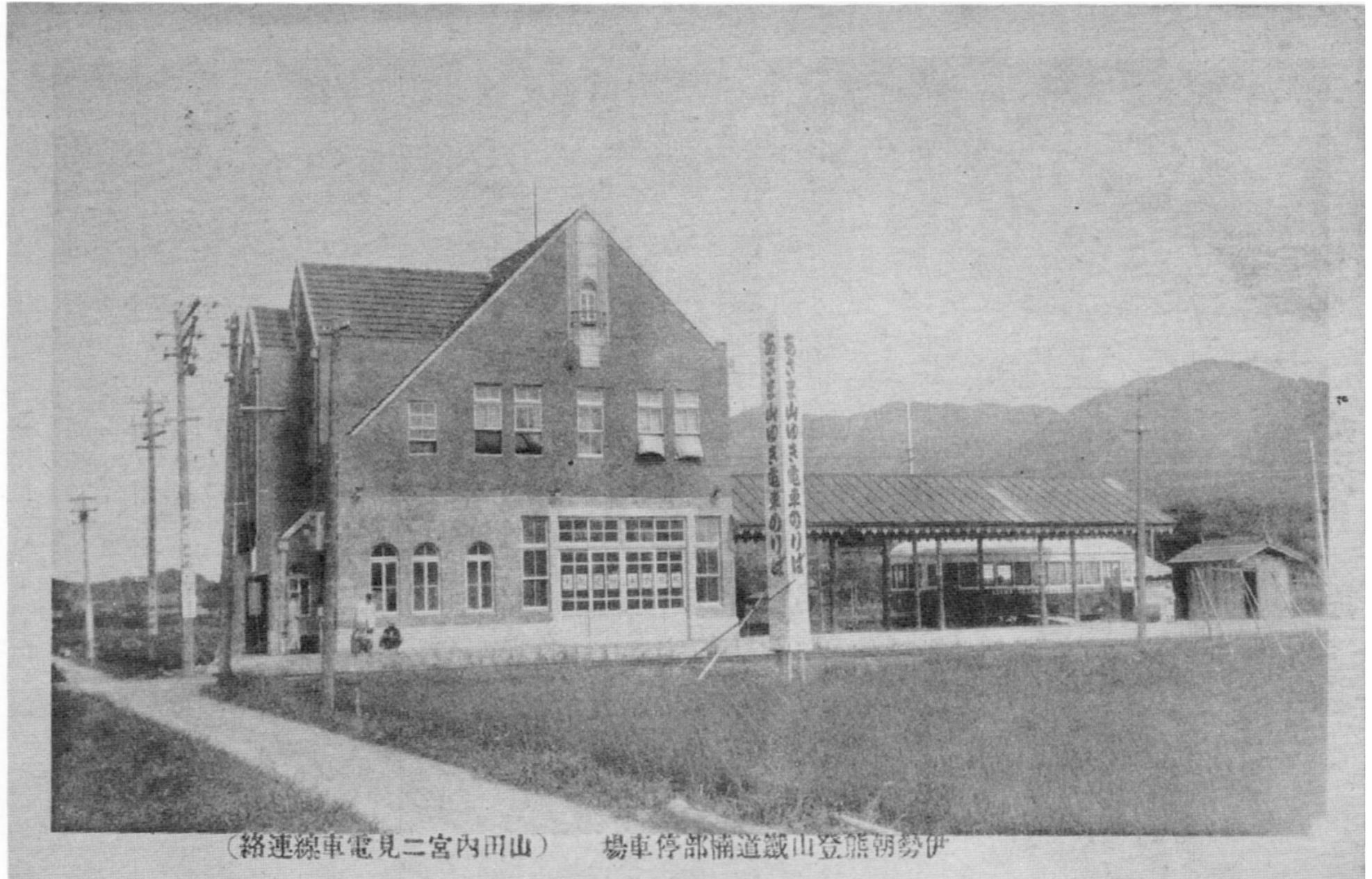


松尾





楠部 朝熊登山鉄道乗換駅

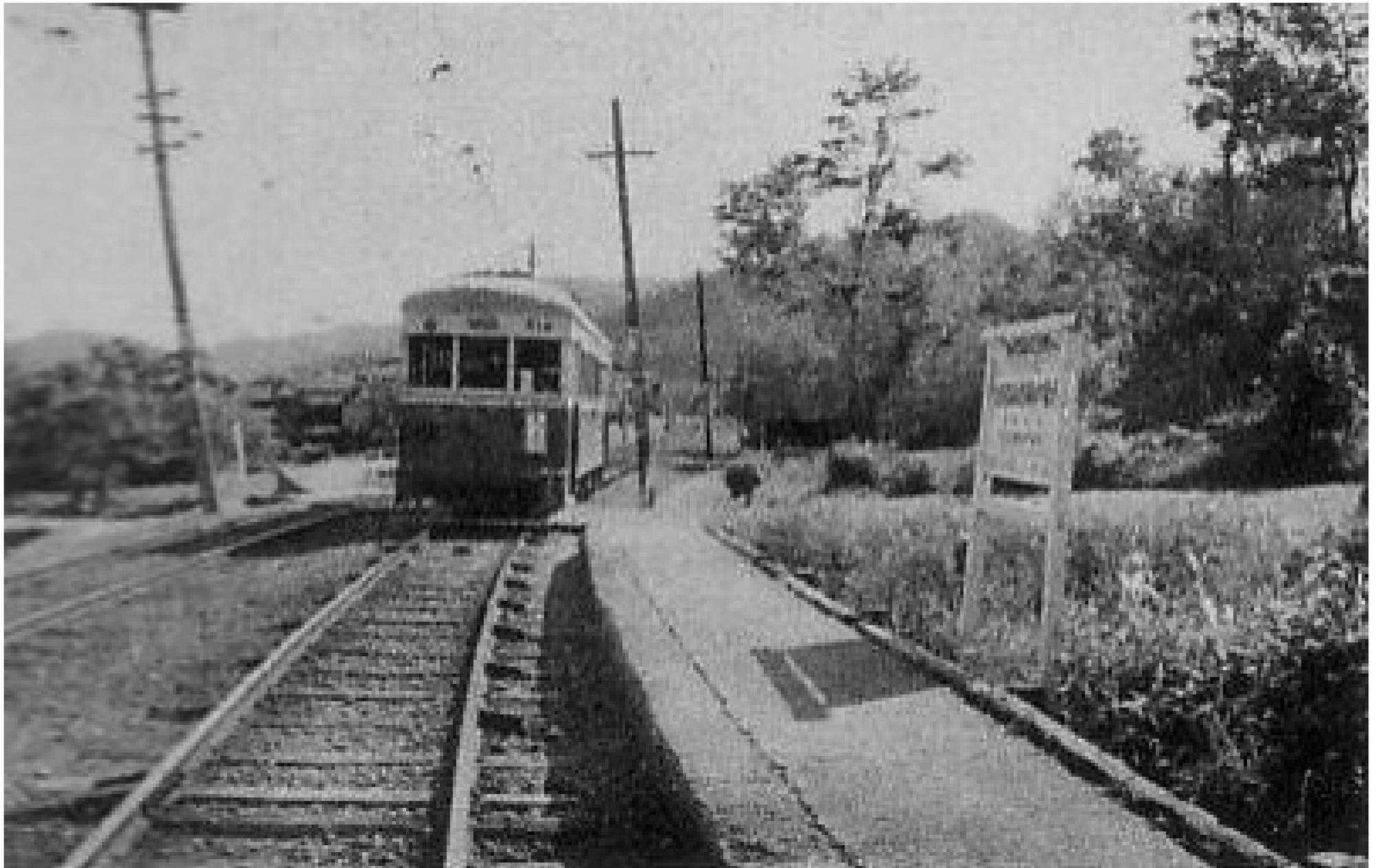


伊勢朝熊登山鉄道楠部停留場(あさま山ゆき電車のりば) 山田内宮二見電車線連絡線



朝熊登山鉄道廃線後、昭和30年

月読宮前





浦田町(宇治)折返しループ線



現在は藤波の松周囲はバスの折返しルートになっている



ここらで
—休み
—休み！

1907明治40年 中山～二軒茶屋開通



参宮鉄道交差陸橋 現在 → 中山



1909明治42年 外宮前～古市口 開業

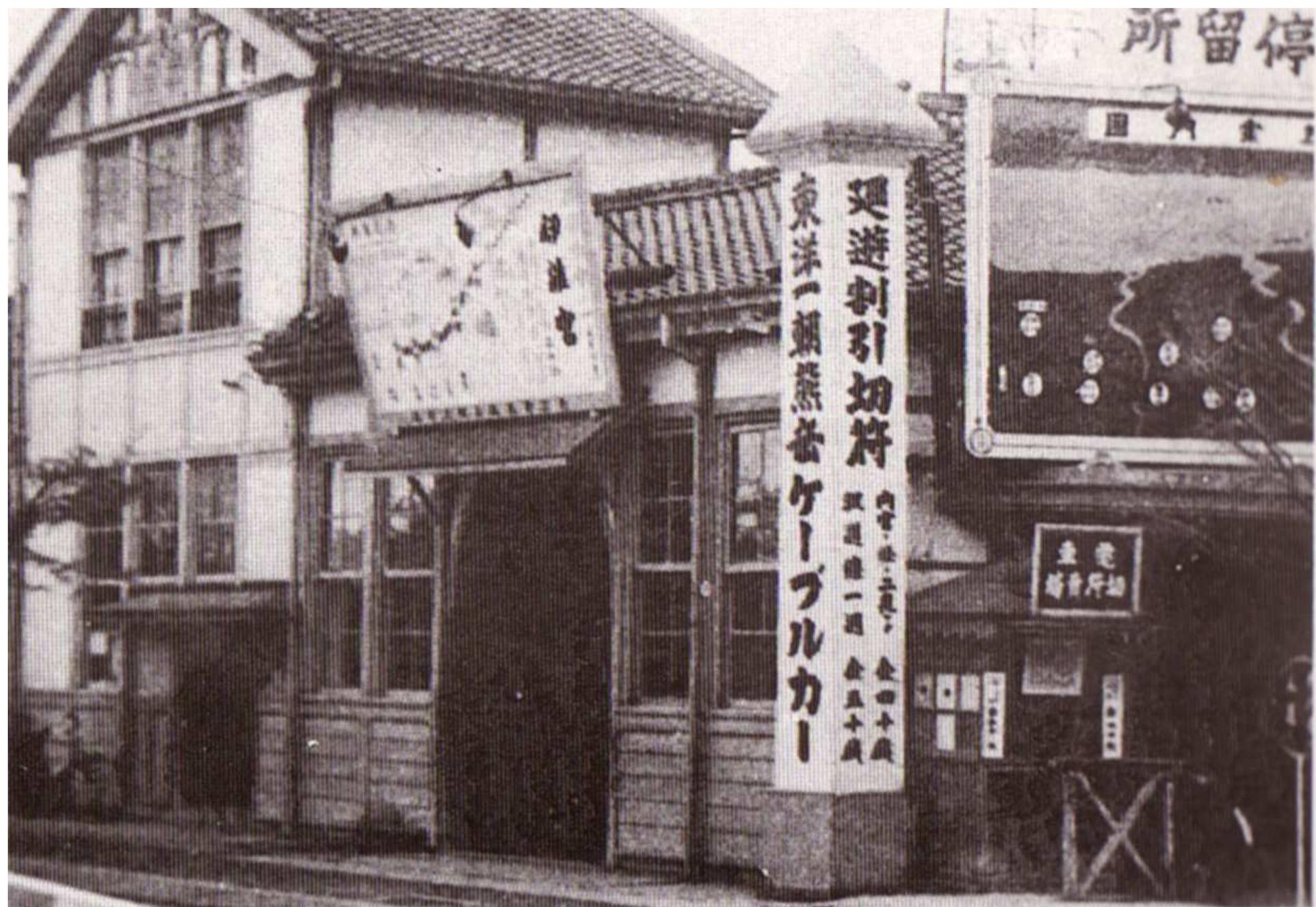
(本町)―外宮前―市役所前―警察署前―(前田)―(古市口)

明治43年御幸道路竣工

外宮前







所留停

金堂

東洋一類茶ヶーブルカ

迎遊割引切符

内容・往・来・金・四・十・銭
取・送・金・一・回・金・五・十・銭

金堂
場音所始



市役所前



警察署前 → 参急電車前 → 近鉄前に改称 往路(御幸道路)



1914大正03年 宇治～内宮前開業

(月読宮前)一猿田彦神社前一進修小学校前(如雪園前?)一内宮前

浦田町(宇治)がなくなり、猿田彦神社前が新設





進修小学校前（如雪園前？）



内宮前





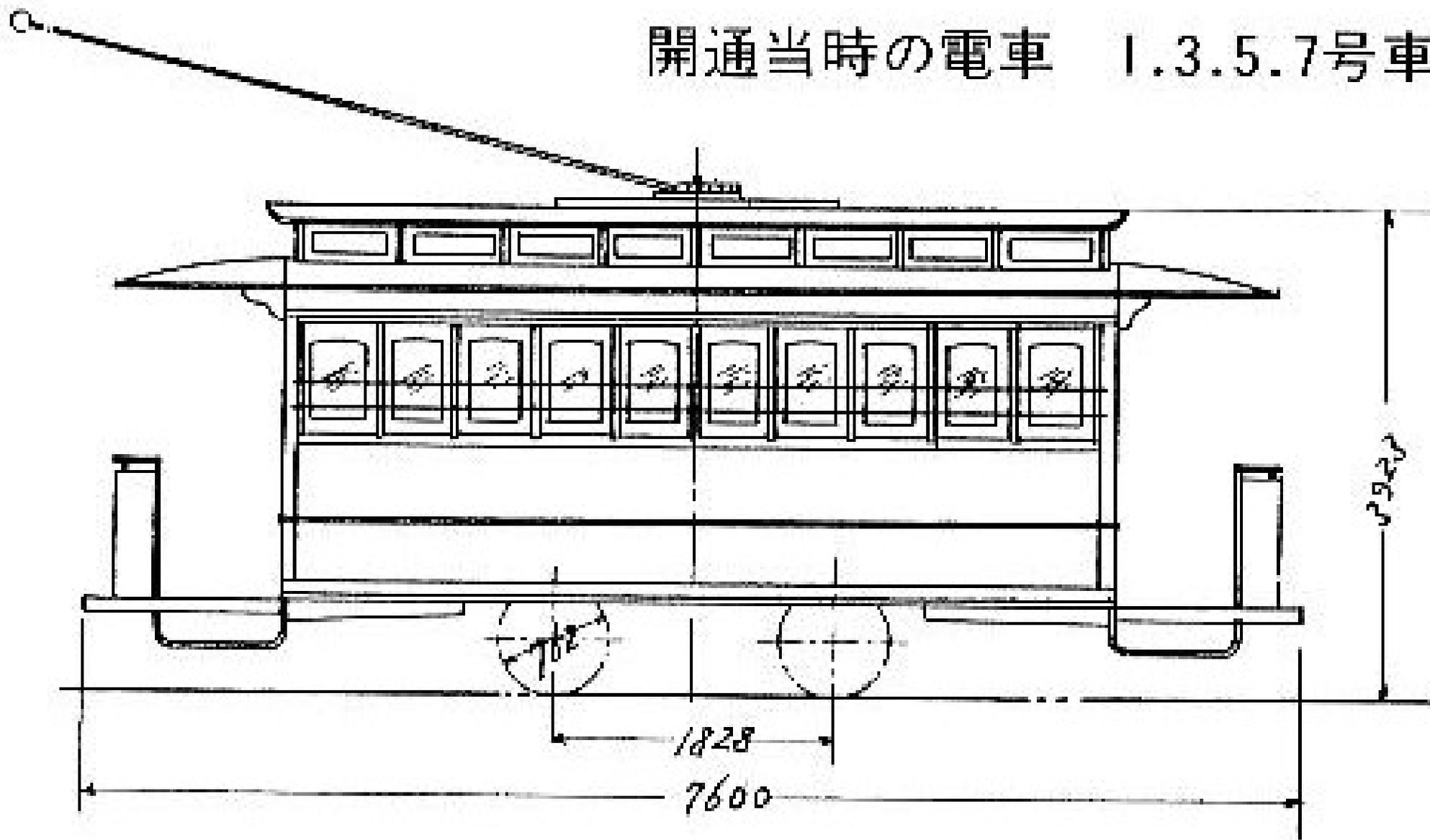
昭和35年

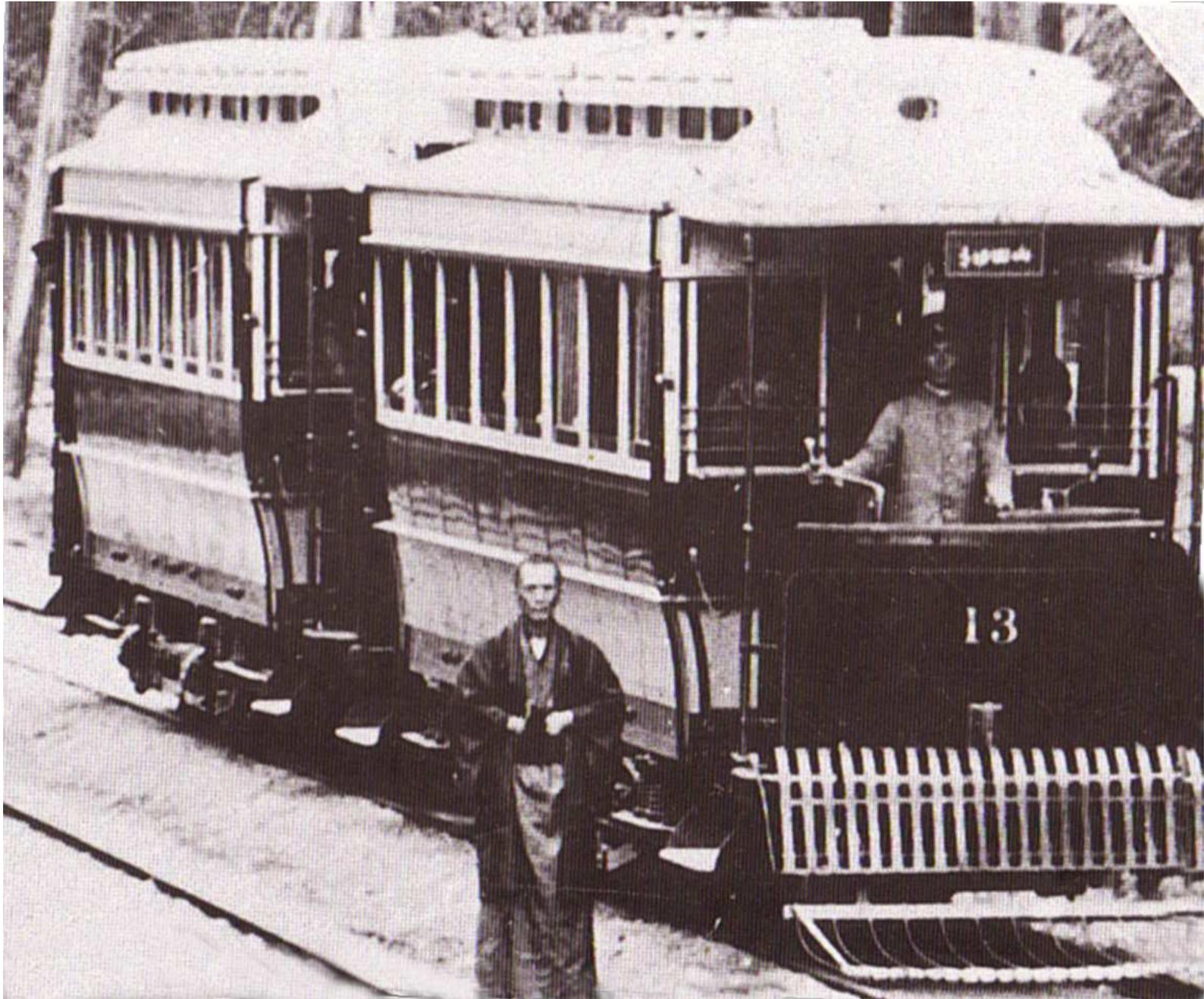
1961昭和36年 三重交通神都線を全廃 バスに転換



1903明治36年開業当時の路面電車

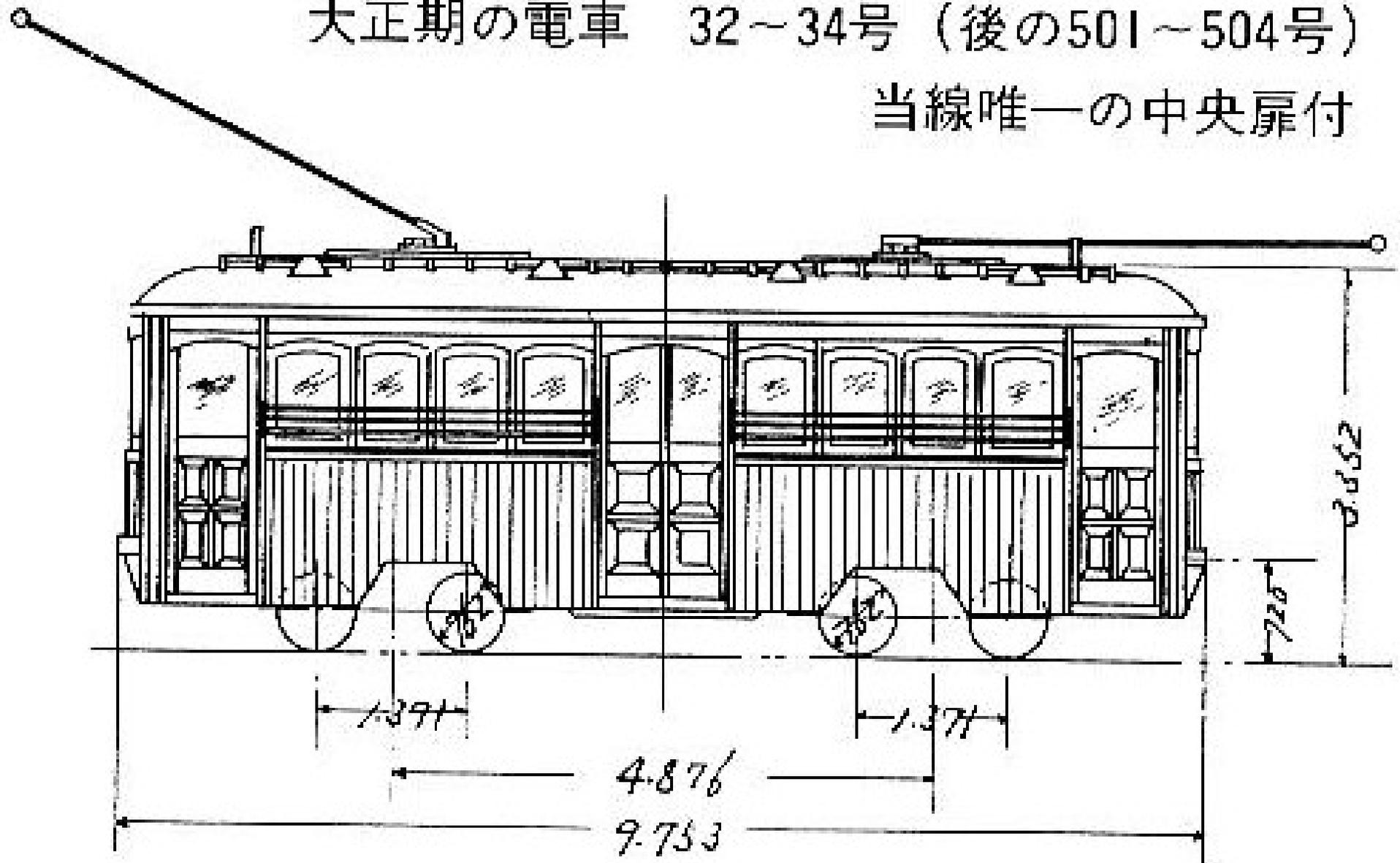
開通当時の電車 1.3.5.7号車





大正期の電車 32～34号（後の501～504号）

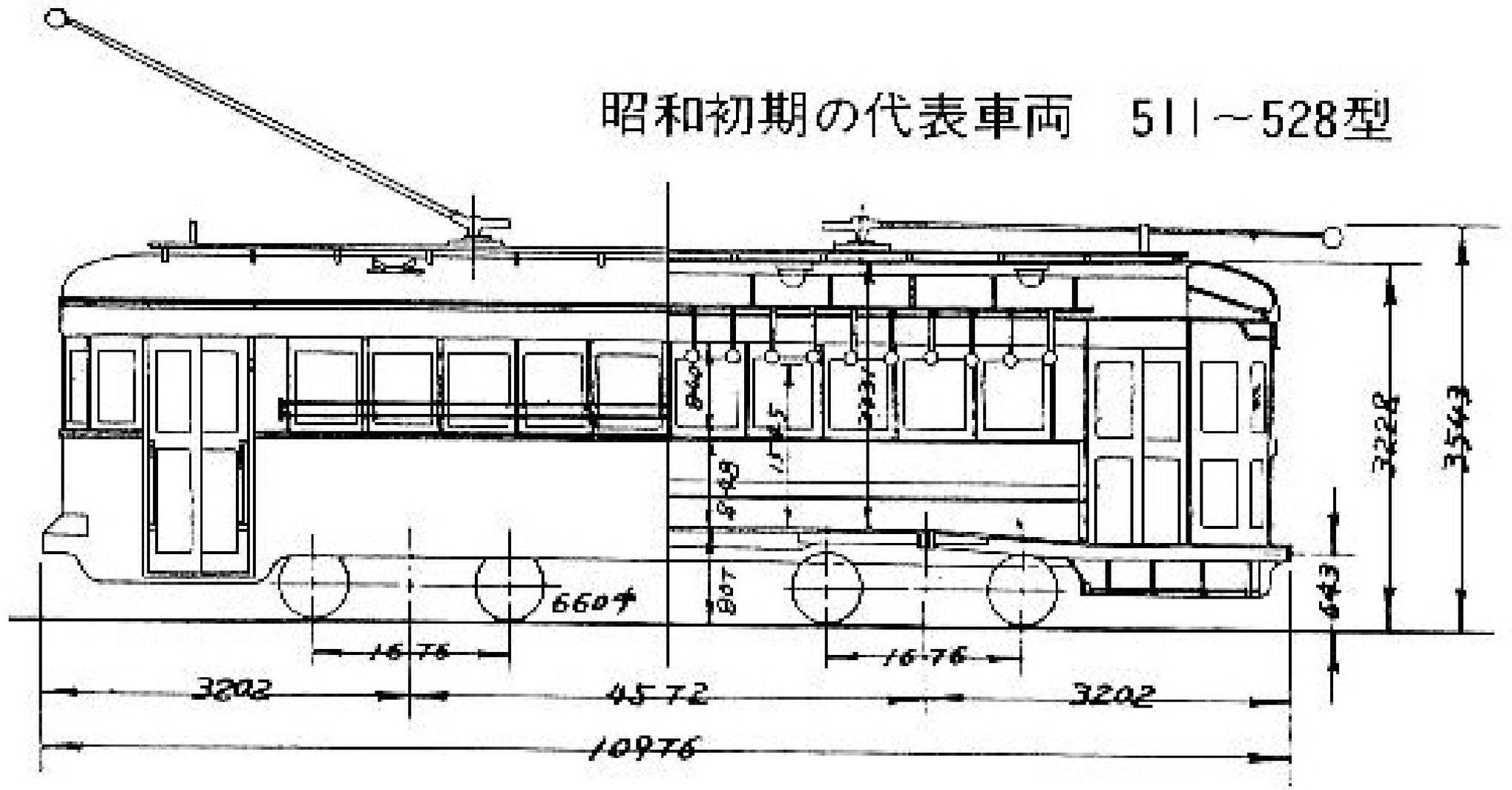
当線唯一の中央扉付

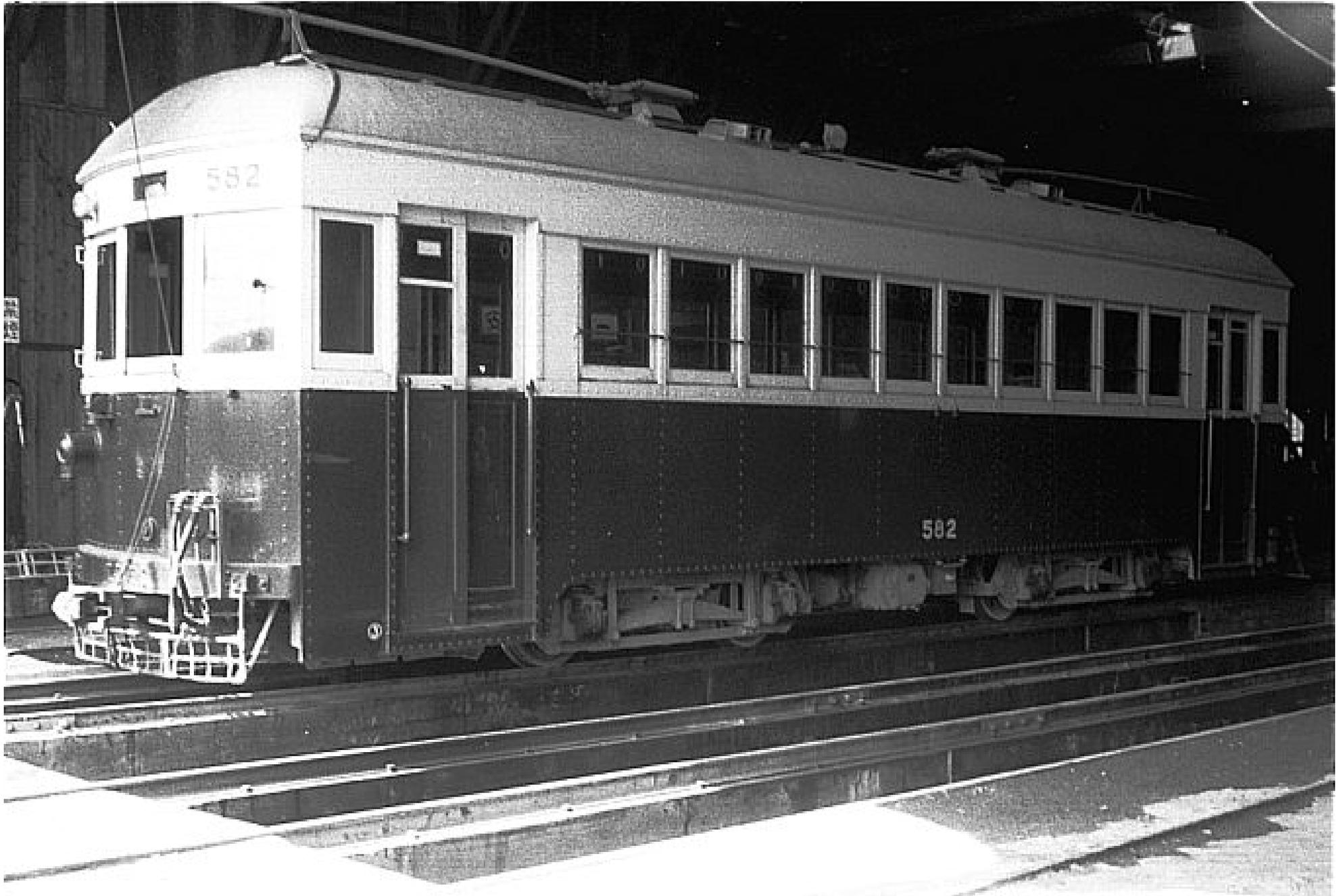




大正15年製最新型ボギー車 昭和初期

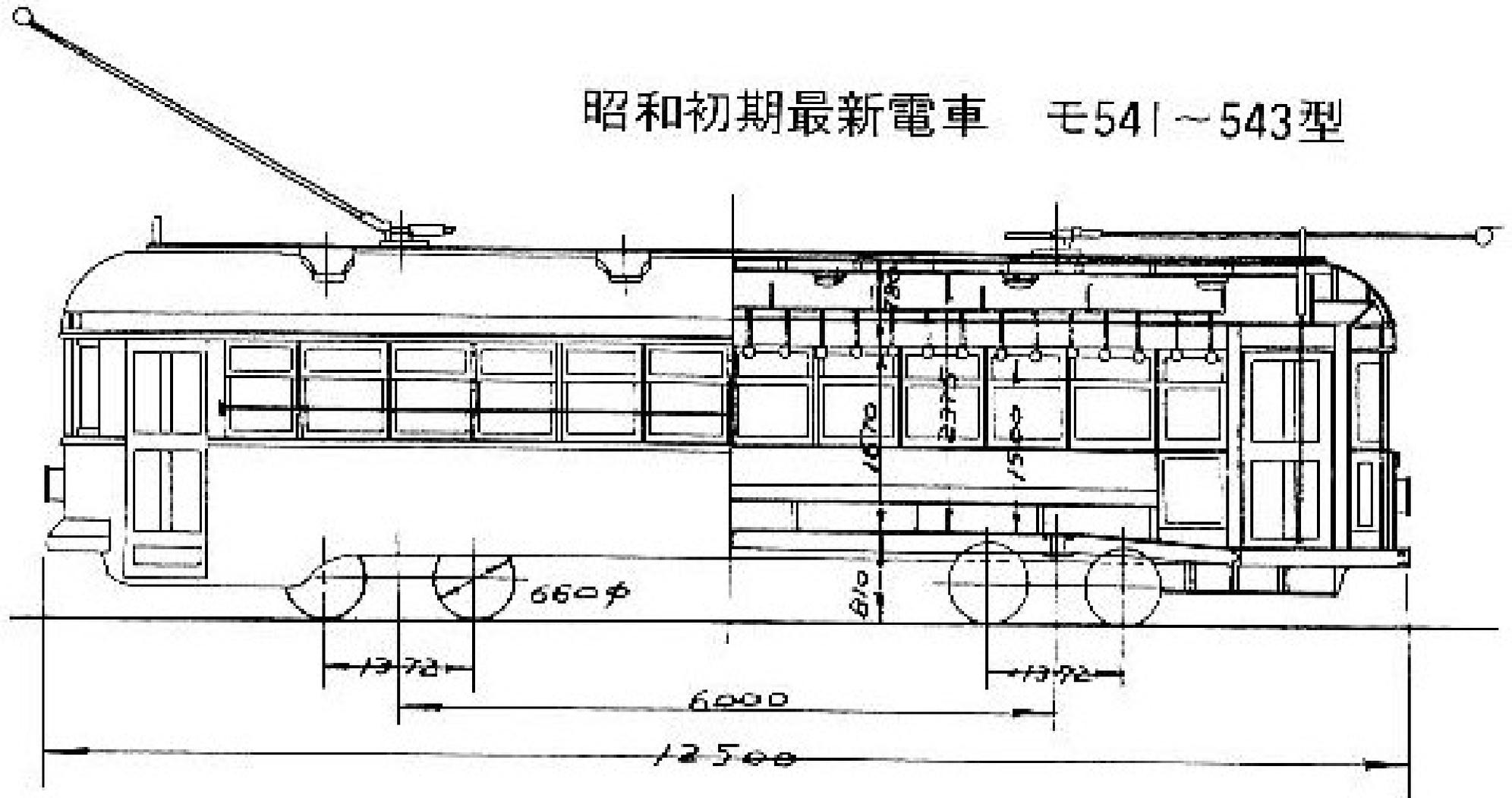
昭和初期の代表車両 511～528型





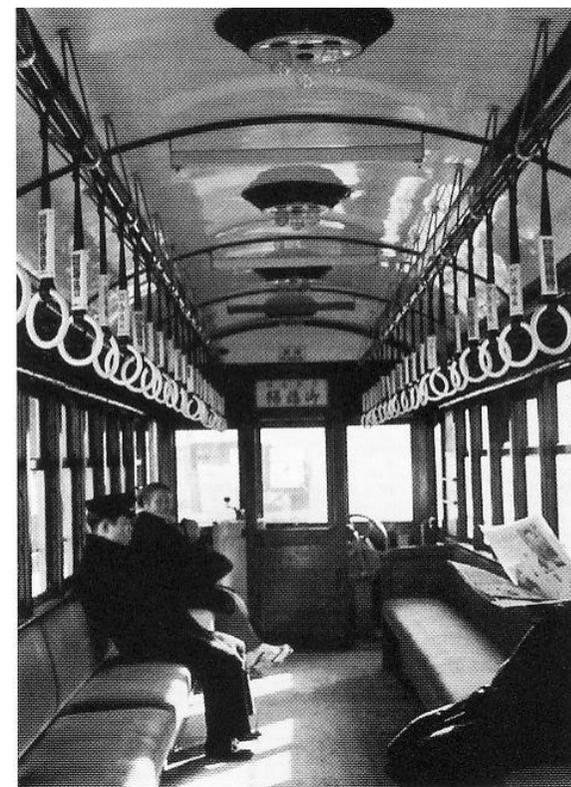
昭和初期の代表電車？ 582型 昭和35年頃(廃線間際)・・・窓の数が10で図面と合致している

昭和初期最新電車 ㄗ541~543型

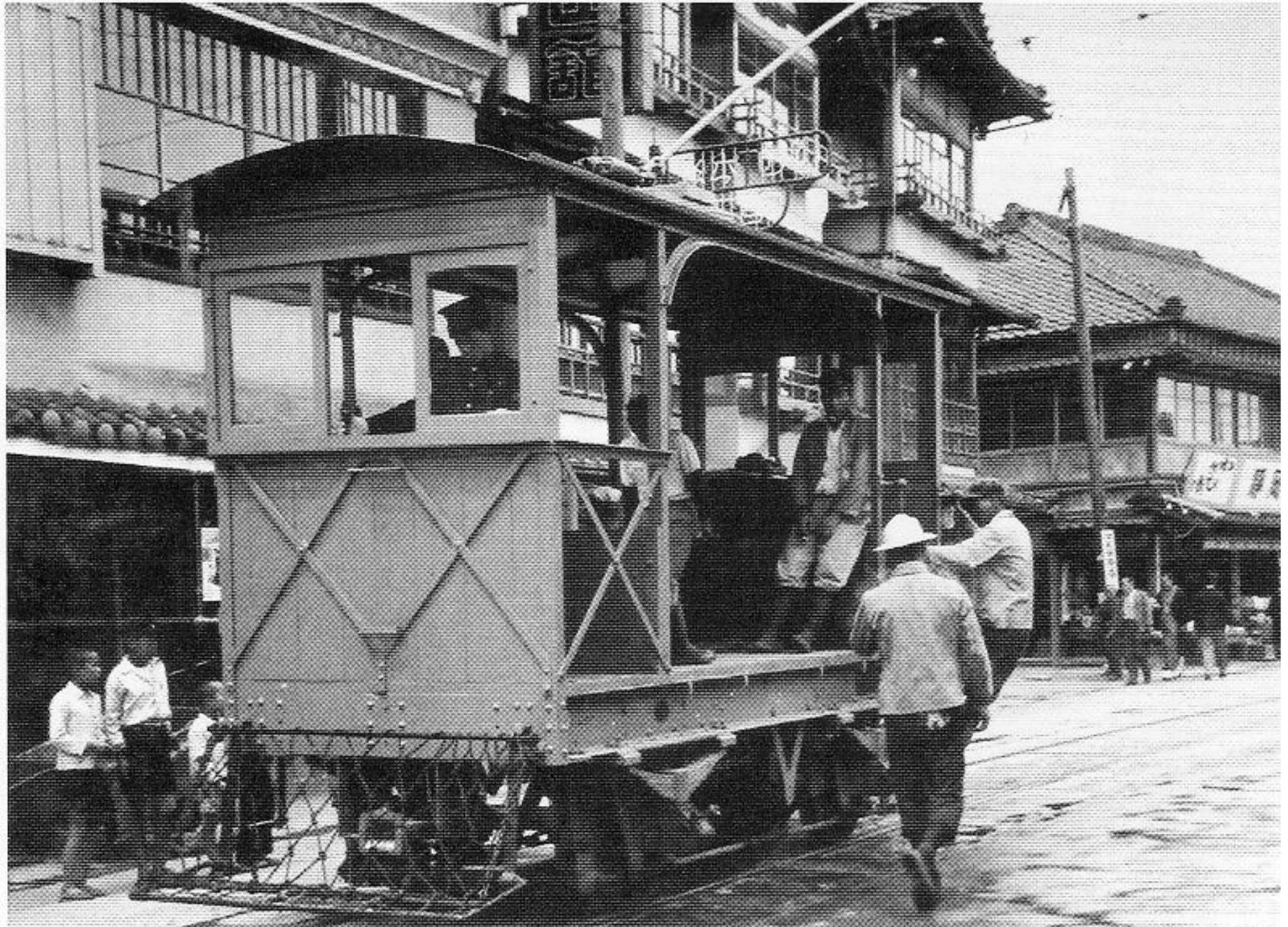




昭和初期の最新電車 モ541型 昭和30年・・・窓の数が12で図面と合致



昭和初期の最新電車モ541型内部 昭和36年

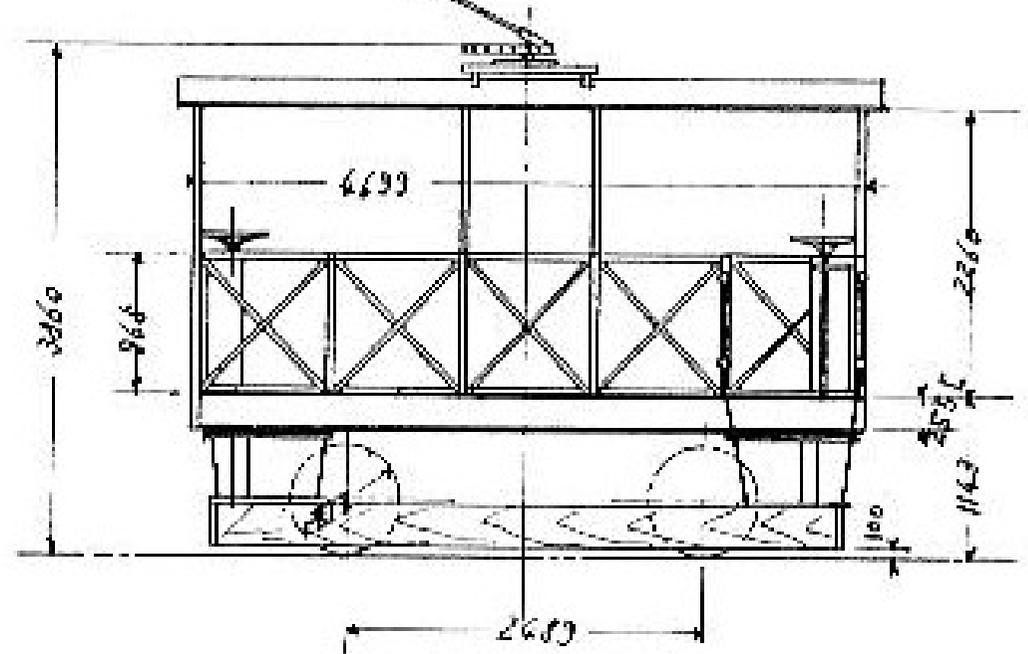
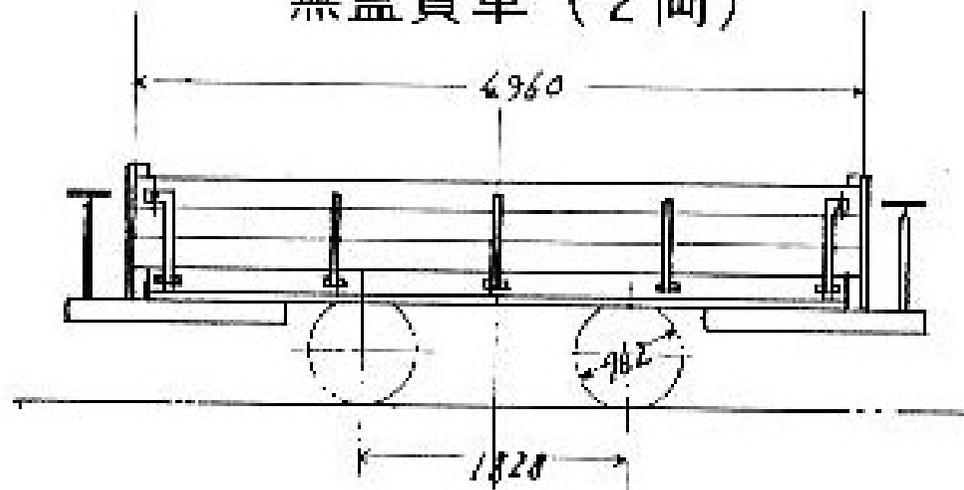


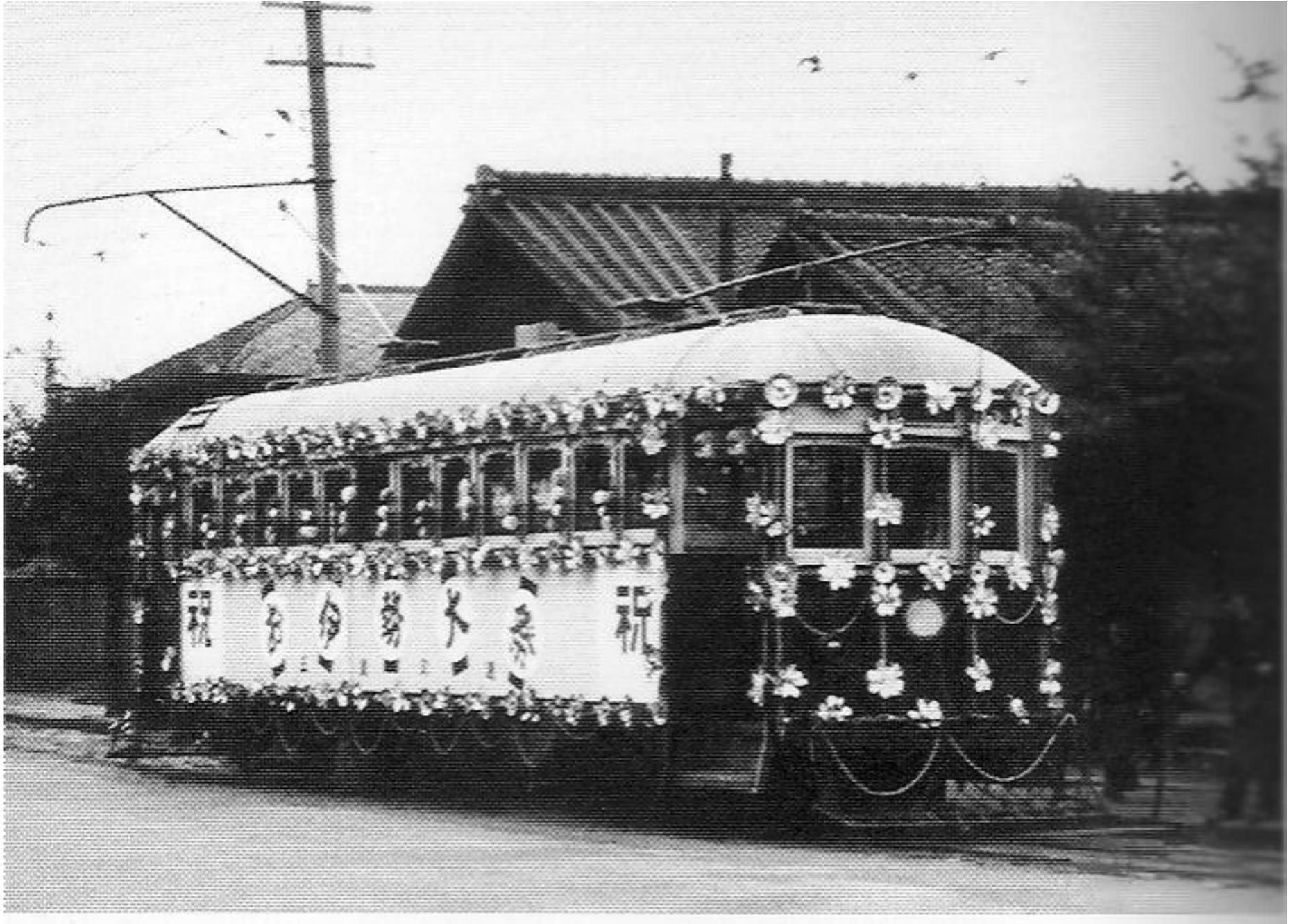


保守点検専用車 昭和29年

貨物専用電車（ドイツ製・明治 41年から廃線まで活躍）

無蓋貨車（2両）

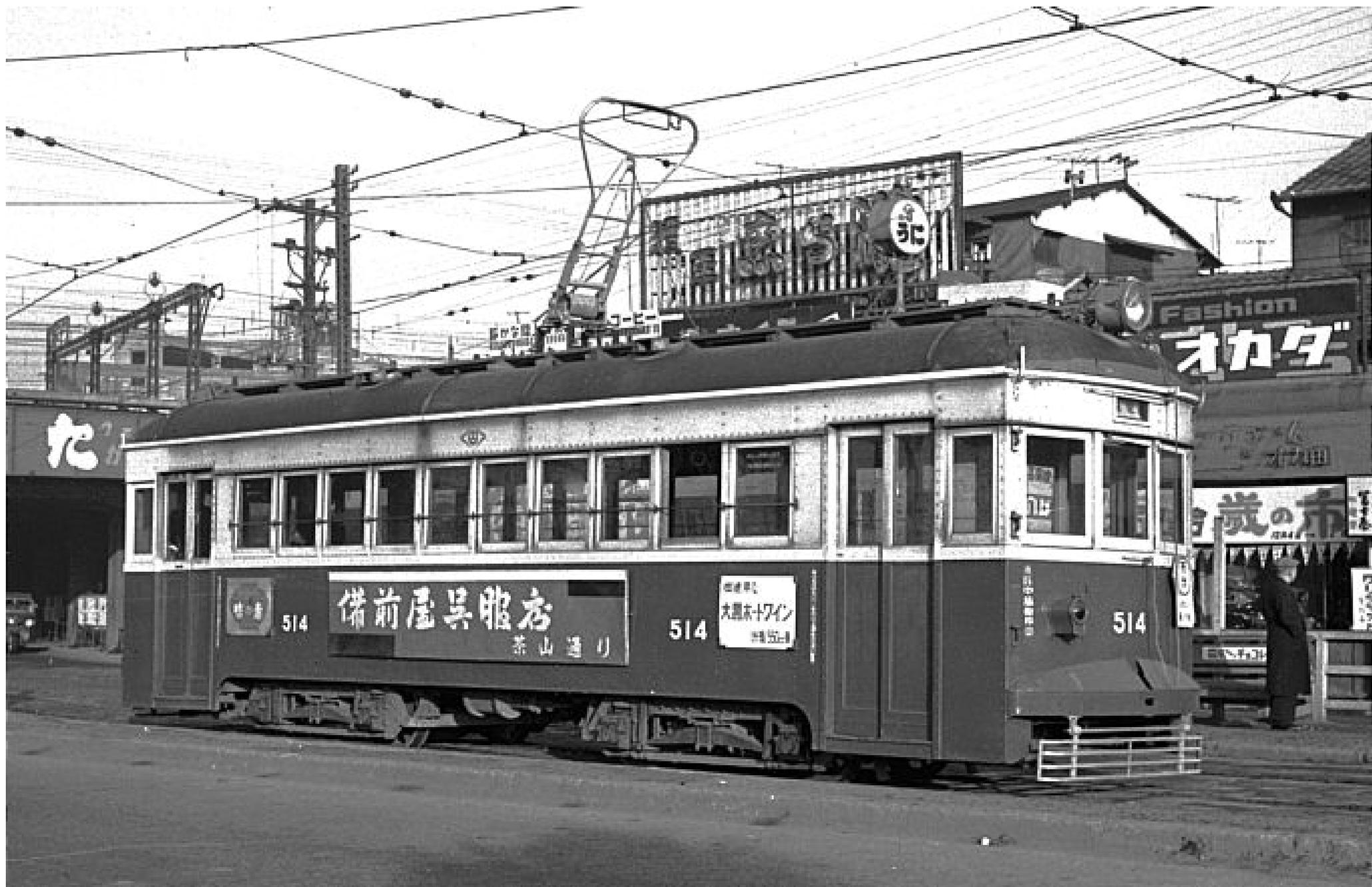




お伊勢大祭花電車 昭和29年



岐阜市の市電でも神都線の車両が使われていました 昭和34年



下関市の市電でも神都線の車両が使われていました 昭和35年

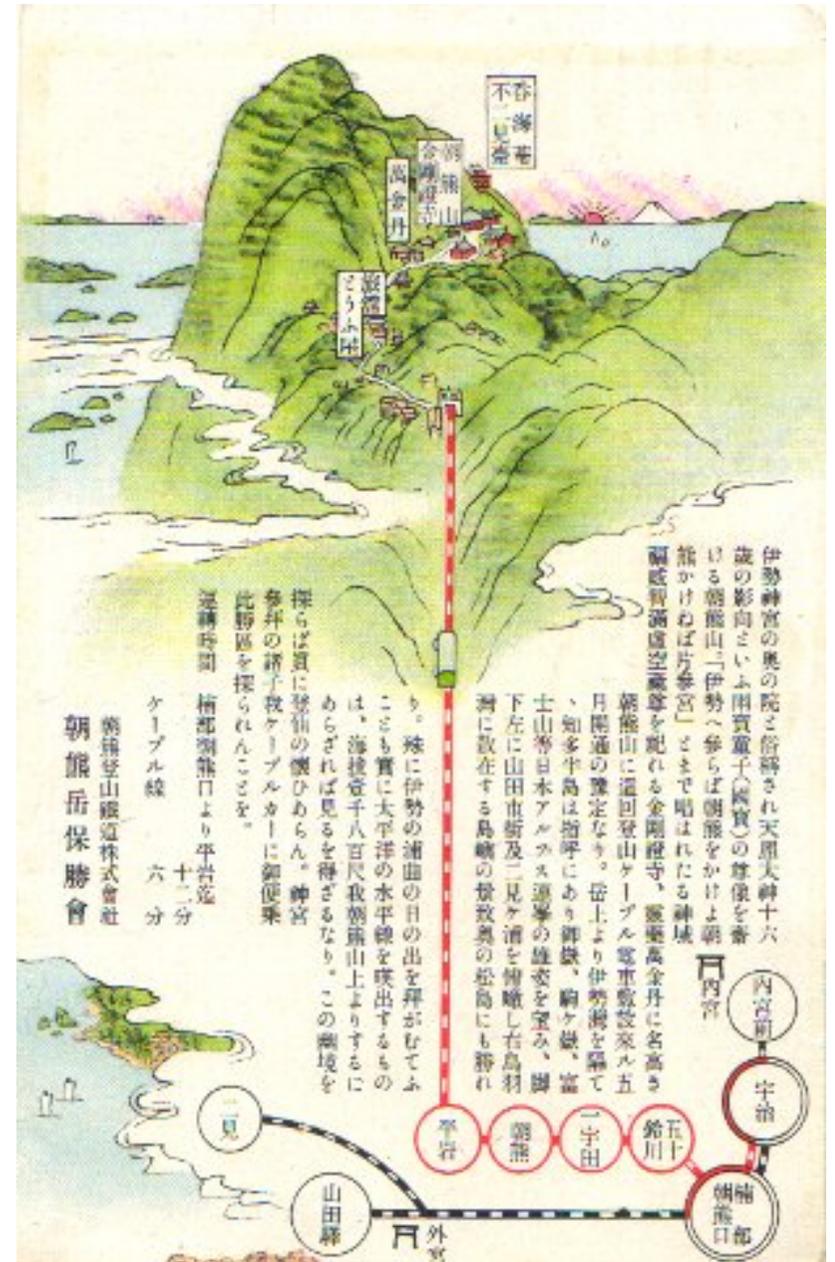
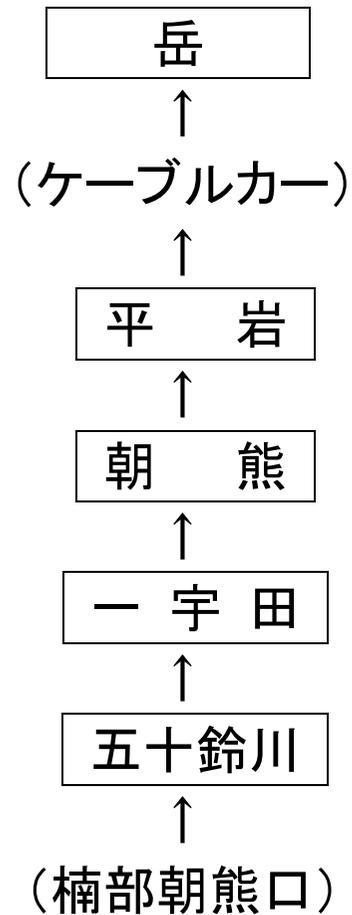
朝熊登山鉄道

1913大正02年	野間罔彦(野間萬金丹)、大井幸太郎(東風屋旅館)ら12名の発起人により四郷村楠部～同村大字富士見峠間鋼索鉄道(初代 朝熊登山鉄道)の免許申請したがその後消滅
1919大正08年	野間罔彦、大井幸太郎、田中善助(伊賀鉄道代表)、太田光熙(伊勢電気鉄道(株)社長)らを発起人として、楠部～平岩間の普通鉄道線4.2km と平岩～岳駅間鋼索鉄道1.1km(高低差412m 当時、東洋一)の免許取得
1920大正09年	朝熊登山鉄道(株)設立
1922大正11年	伊勢電気鉄道(株)は三重合同電気(株)と改称
1923大正12年	朝熊登山鉄道(株) 工事に着手
1925大正14年	朝熊登山鉄道(株)営業開始
1928昭和03年	朝熊登山鉄道(株)は三重合同電気(株)と合併し同社「朝熊線」となる
1930昭和05年	三重合同電気(株)は合同電気(株)に改称
1937昭和12年	合同電気(株)は東邦電力(株)(元 関西電気(株))と合併し東邦電力(株)となる
1939昭和14年	国策によって電車部門は神都交通(株)の経営となる
1944昭和19年	(開業約20年後)戦時下の不要不急路線として朝熊線を休止 三重県下の鉄道・バス事業を統合して三重交通が発足、 路面電車は同社の路線「神都線」となる
1961昭和36年	路面電車廃線
1962昭和37年	休止中の朝熊線を廃止

1925大正14年 朝熊登山鉄道営業開始

1920大正09年 朝熊登山鉄道設立

1925大正14年 朝熊登山鉄道営業開始

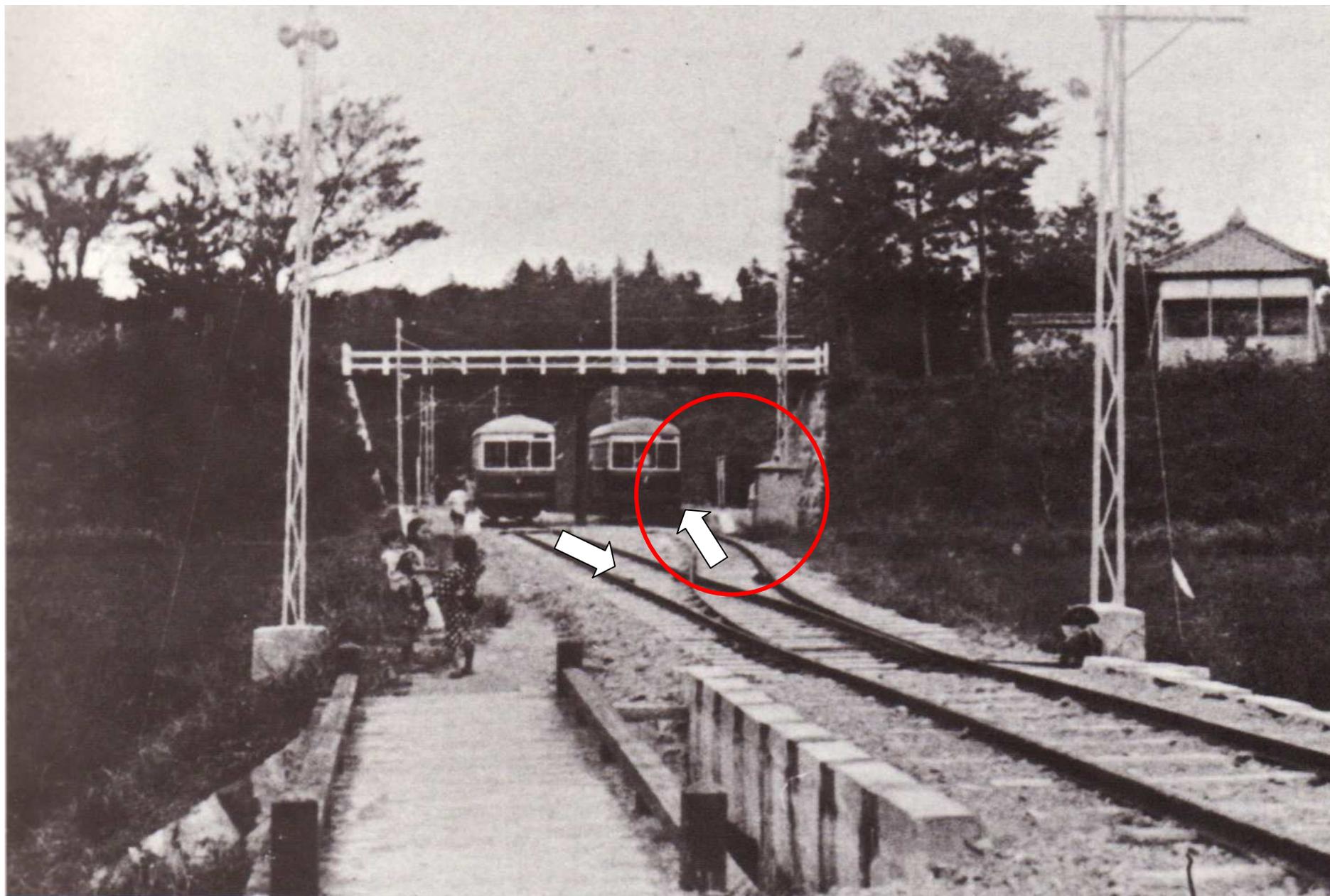


五十鈴川鉄橋跡 五十鈴川駐車場の写真なし



五十鈴川橋のそばに鉄橋橋脚が残存している (絵葉書を除き)以降のカラー写真は2007年撮影

○が一字田停車場か？ 対向車待合路線



神都線は電車では珍しい「右側通行」山田駅からまず外宮前を通過したかったため右側通行になった？

朝熊停車場と変電所

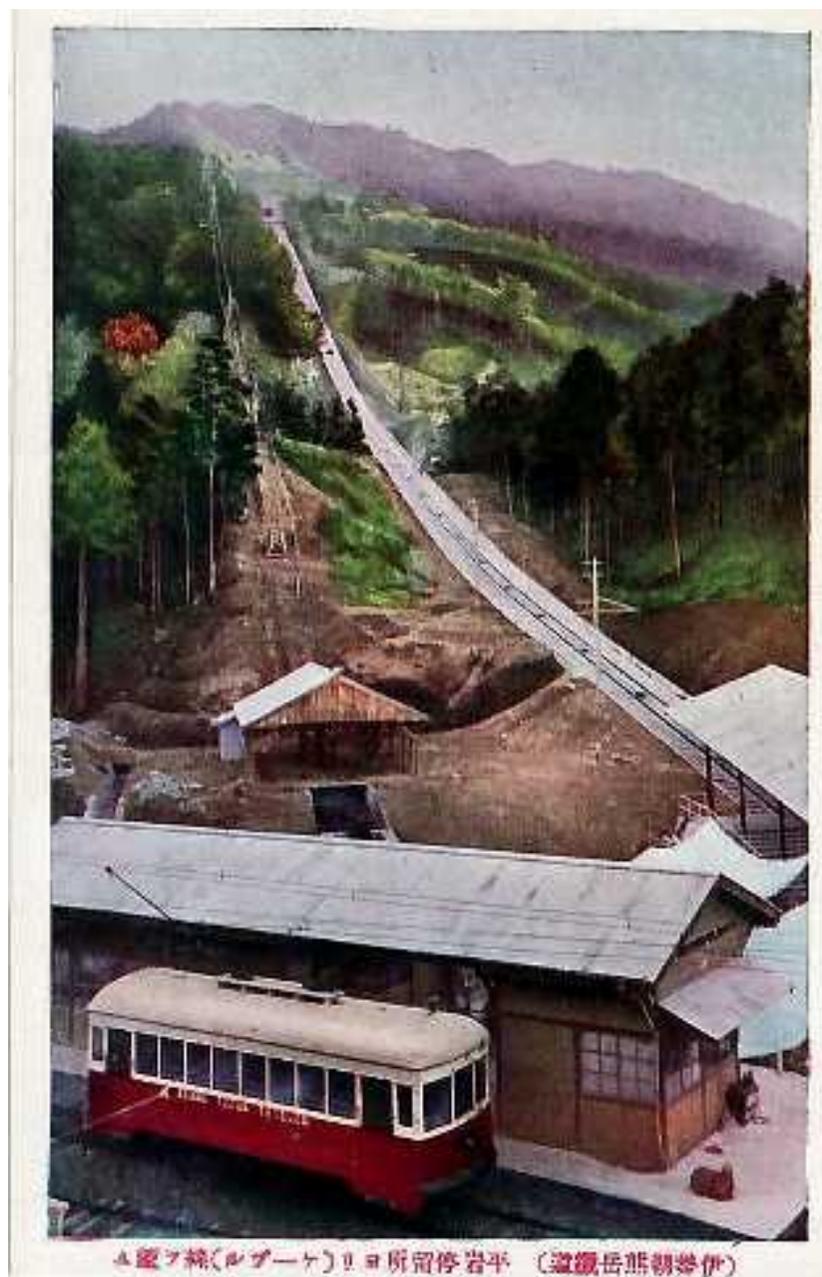


Famous Places

近用村熊朝

(岳熊朝勢伊)

平岩停車場と(東洋一)ケーブルカー発着場





ASAKUMA MT CABLE CAR

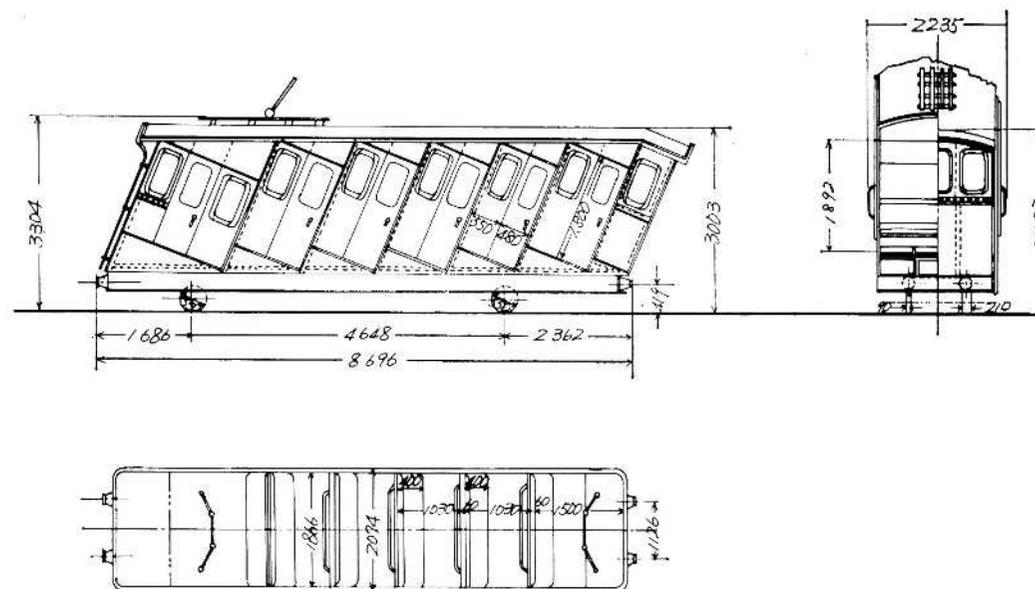
新設最岩中 (一カビル一々山登能無於此)



ケーブルカー車両



鋼索線車両竣工図 形式ア 記号セ1・2



登山道の陸橋



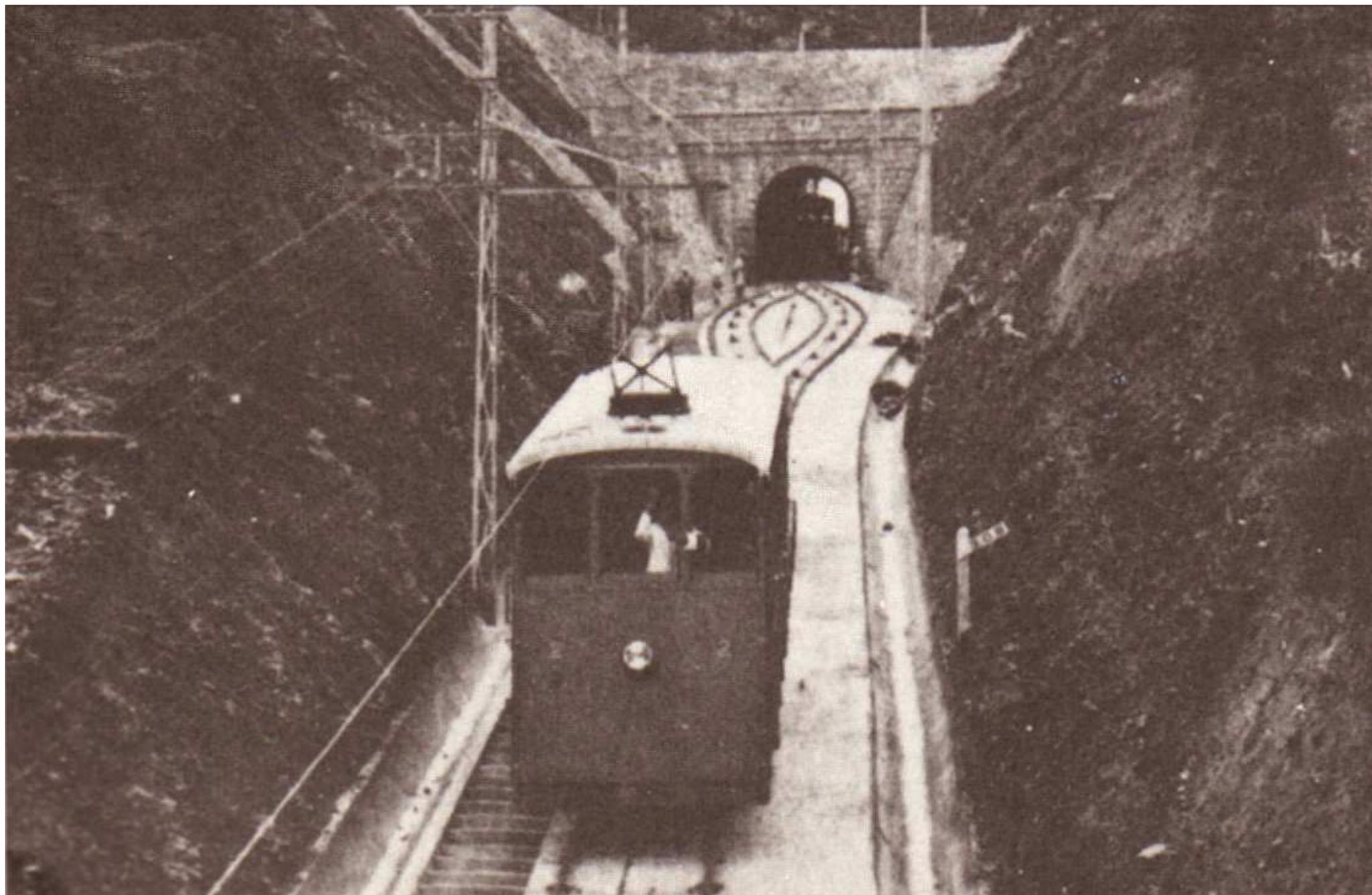
伊勢電氣鐵道中央支線 伊勢川合流



第1トンネルを通過



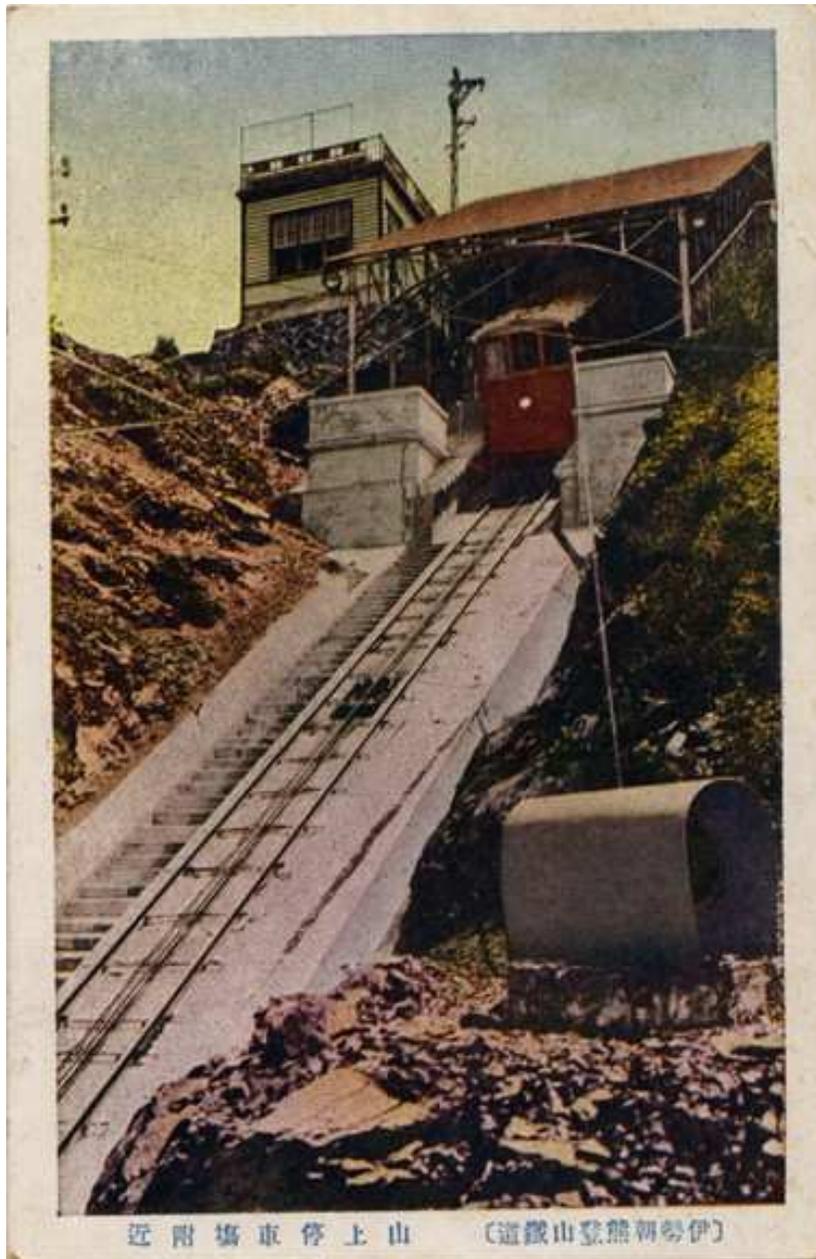
第2トンネル前の交差線を通過



第1トンネル と 第2トンネル



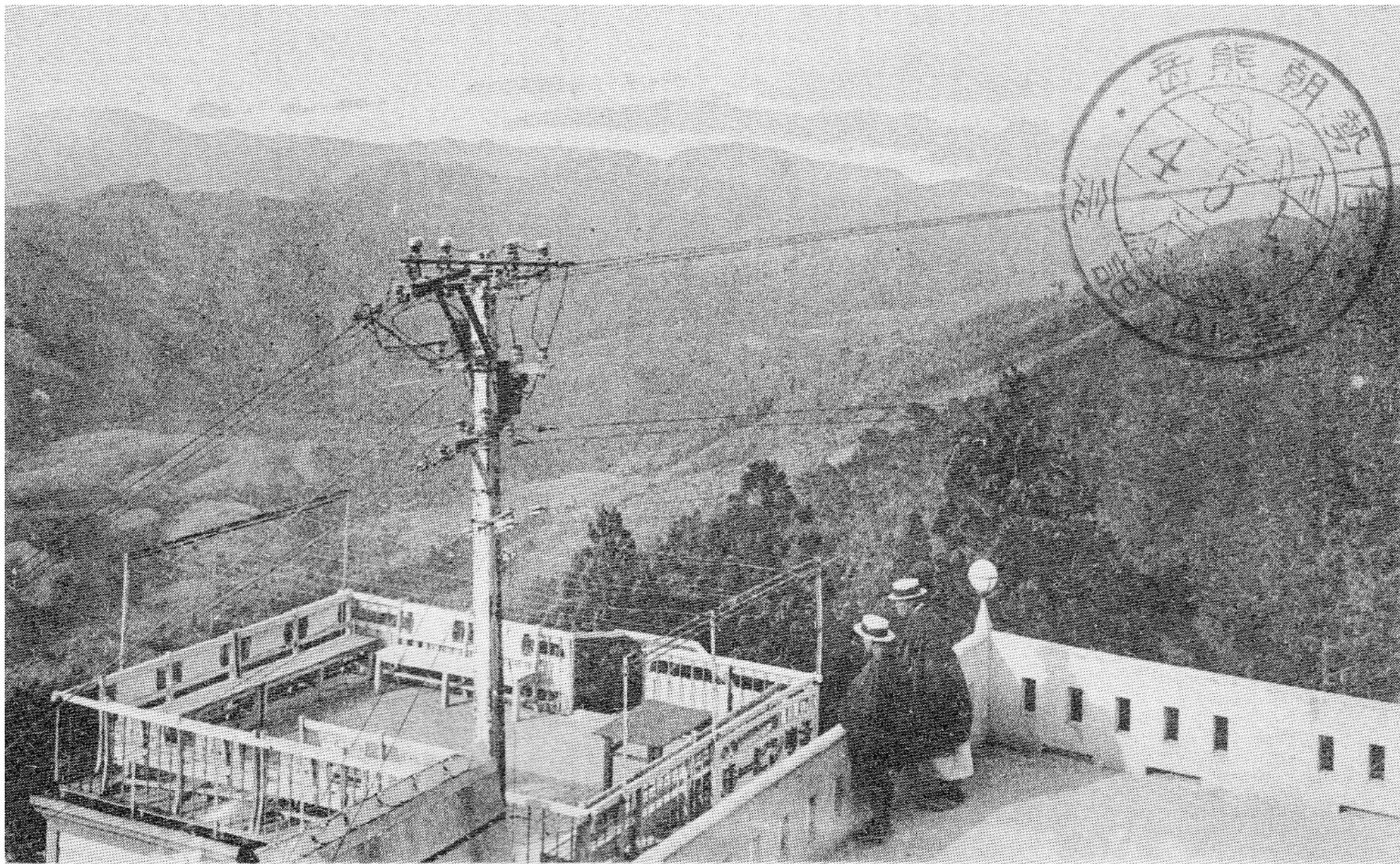
岳 停車場



朝熊岳山上からの眺望



左手奥が「岳停車場」 右へ金剛證寺参道へ

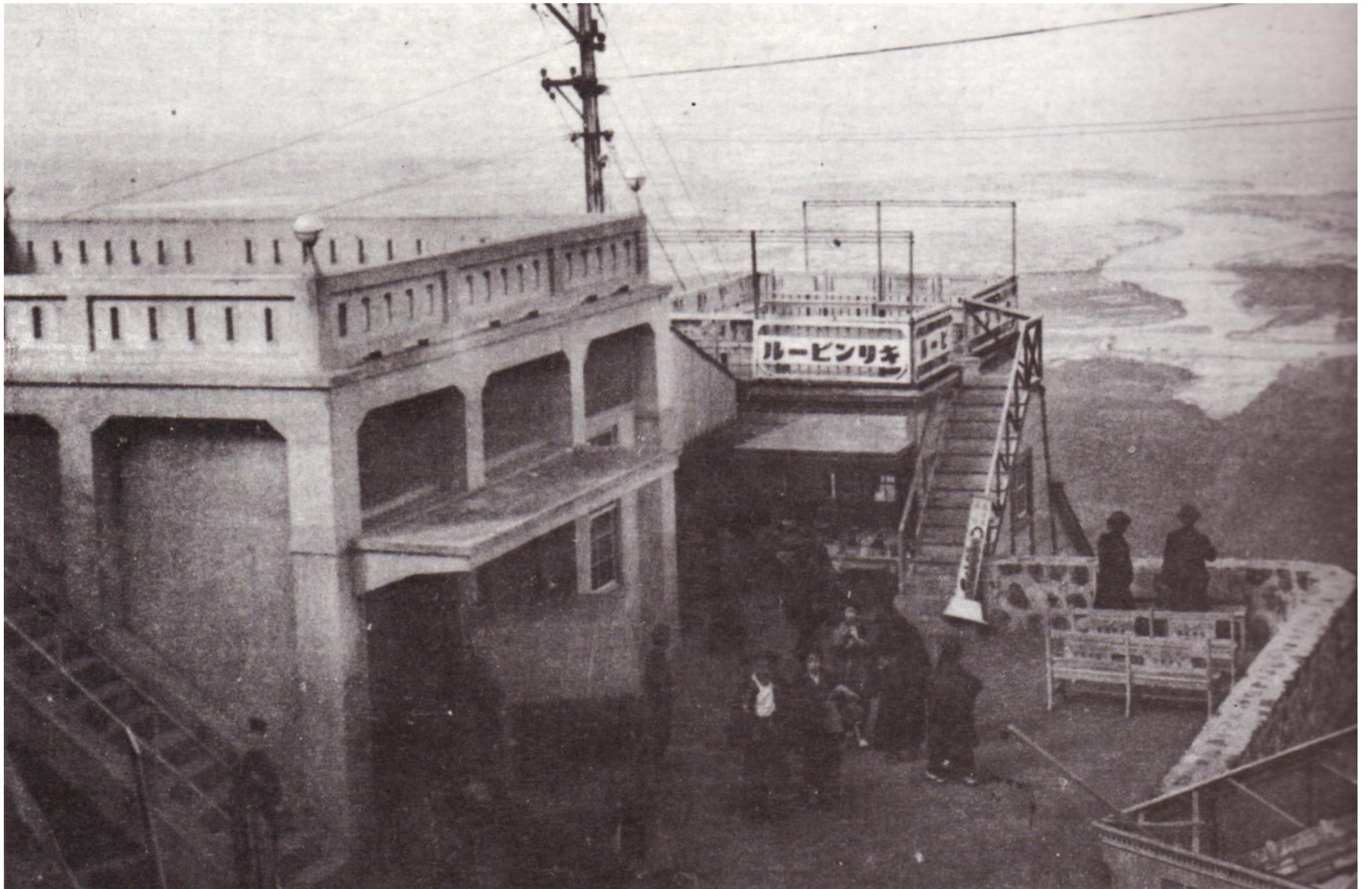


Famous Places

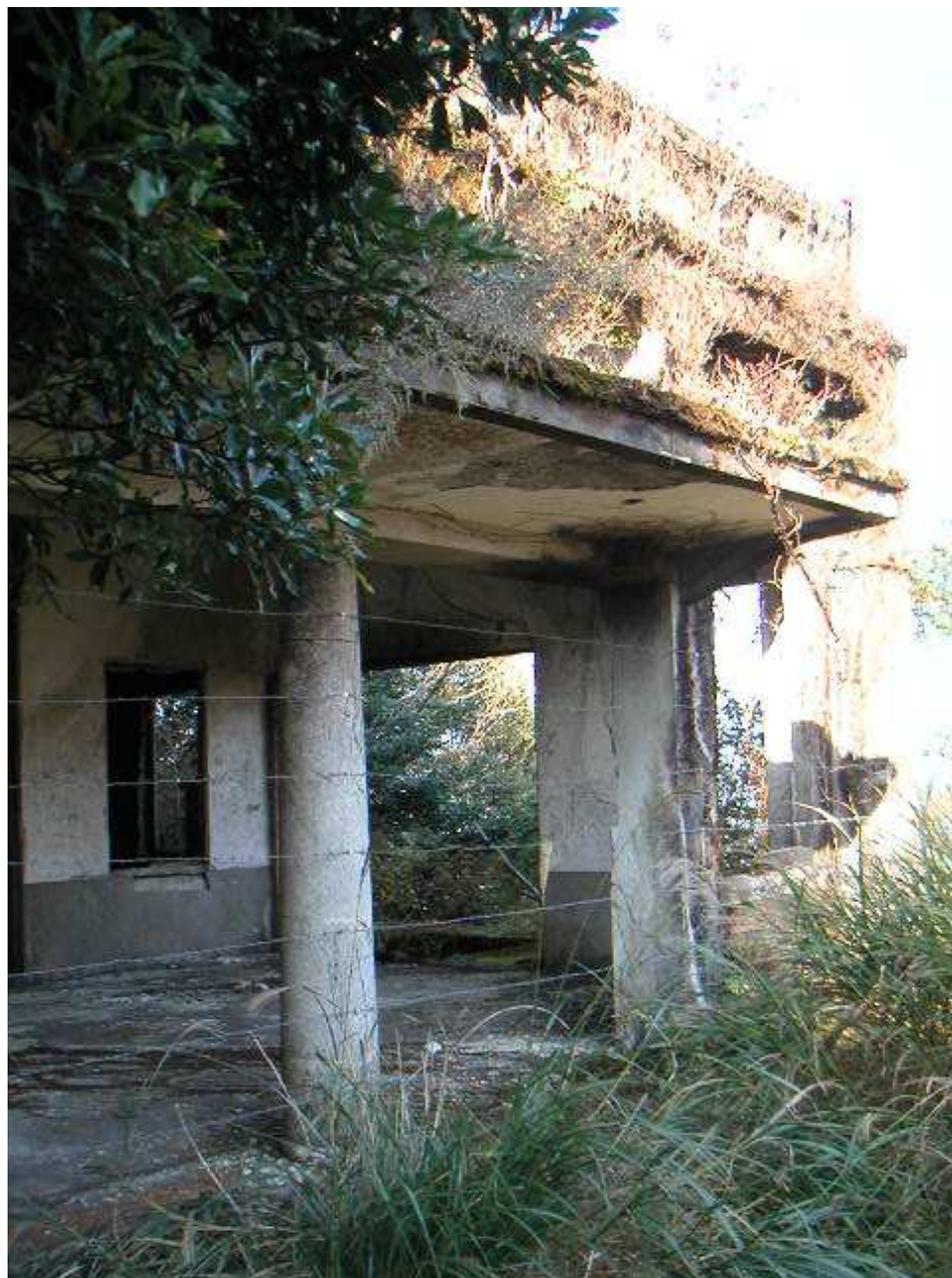
△ 望ノ浦羽鳥ヨコ上山

(岳熊朝勢伊)

昭和4年 岳停車場屋上からの眺望 1925大正14年朝熊登山鉄道営業開始なので昭和とわかる



1944昭和19年 朝熊線を休止→2007年は廃墟になっていた



1922大正11年津電灯(株)・松阪電気(株)と合併して三重合同電気(株)となる 三重合同電気(株)は電気コタツ・ストーブも販売していました(昭和4年)

電気コタツの御勧め

寒い冬が訪れました、此の冬は

電気コタツ 電気ストーブ

で暖く暮らしませう

火の消ゆる心配がなく
火事の憂へが省け
炭火の如く有毒瓦斯が発生せず
安全で最経済であります



◆ 豫約期間

十二月十日まで

◆ 豫約特典

- 一、器具の特賣
- 一、取付工事料無料 (規程料金壹圓五拾錢)
- 一、試験料無料 (規程料金五拾錢)

豫約期間経過後は規程の料金を申受けます

器具名	品 種	豫約特価		豫約後	
		電 料	器 具	電 料	器 具
六〇ワットコタツ	内外電熱器製	三	四〇	五	〇〇
	六〇ワットコタツ	三	四〇	五	〇〇
六〇ワット	夜間	五	八五	六	五〇
	昼間	三	九〇	四	五〇
五五〇ワット反射型	グローバー型	一	二〇〇	一	四〇〇
	丸型	一	〇〇	一	四〇〇
五五〇ワット反射型	夜間	三	〇〇	三	〇〇
	昼間又ハ夜間	二	〇〇	二	〇〇

四〇ワットコタツ御所持の方へは昨年通りの電気料金で御送電申上ます
◆ 反射ストーブは醫院の診察室用其他一般應接室用として必需の備品であります

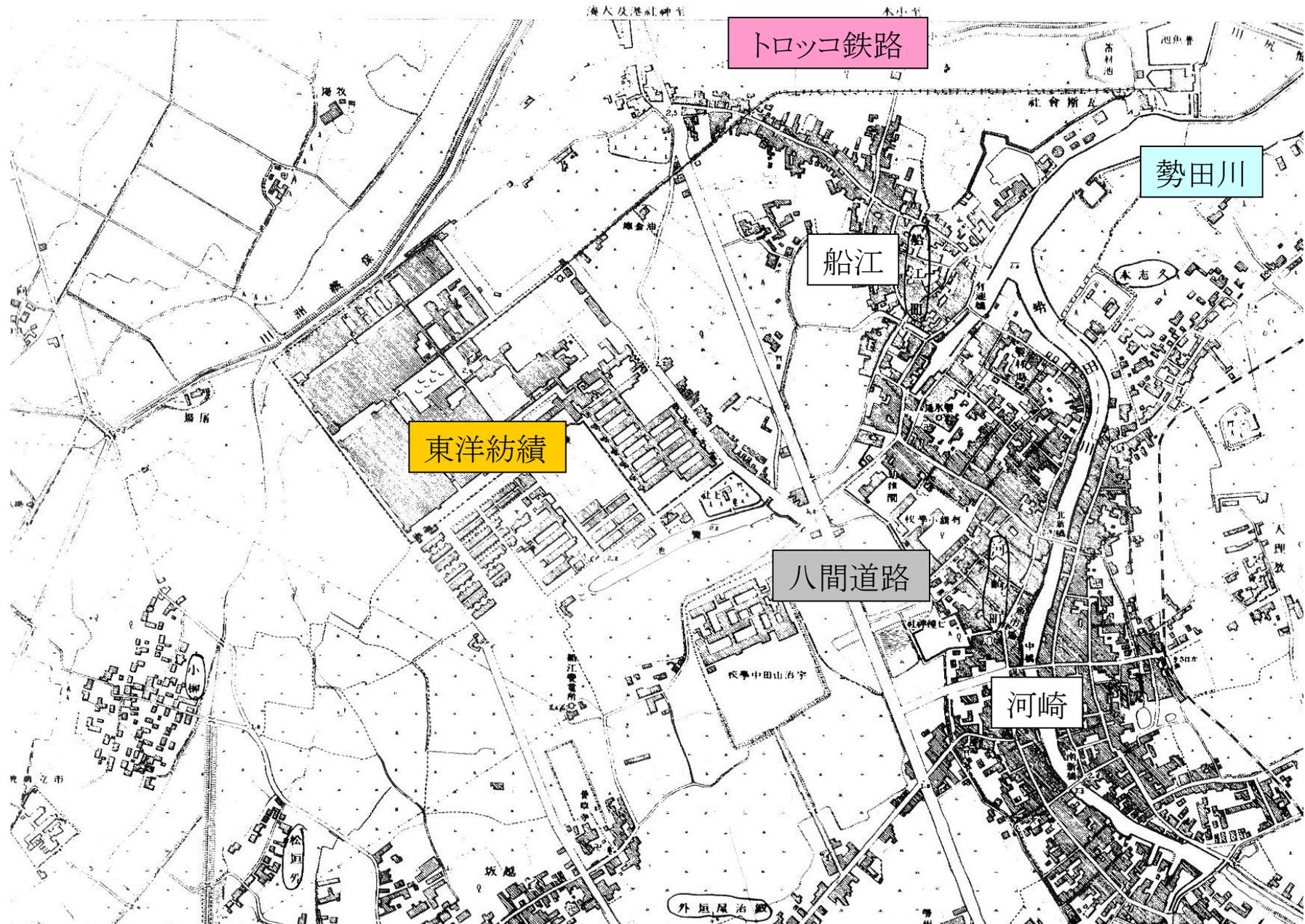
昭和四年十一月

三重合同電気株式會社

津 支 社 (電九二・四七四)
 松阪營業所 (電二・四二六)
 宇治山田營業所 (電三四・四五五)
 上野營業所 (電一六・二二四)
 尾鷲出張所 (電三五・一三八)

御申込は今直ぐに!!

またまた余談ですが…第6番目の鉄路がありました「東洋紡のトロッコ鉄路」



昭和5年実測及仲図修正「宇治山田近傍」図より

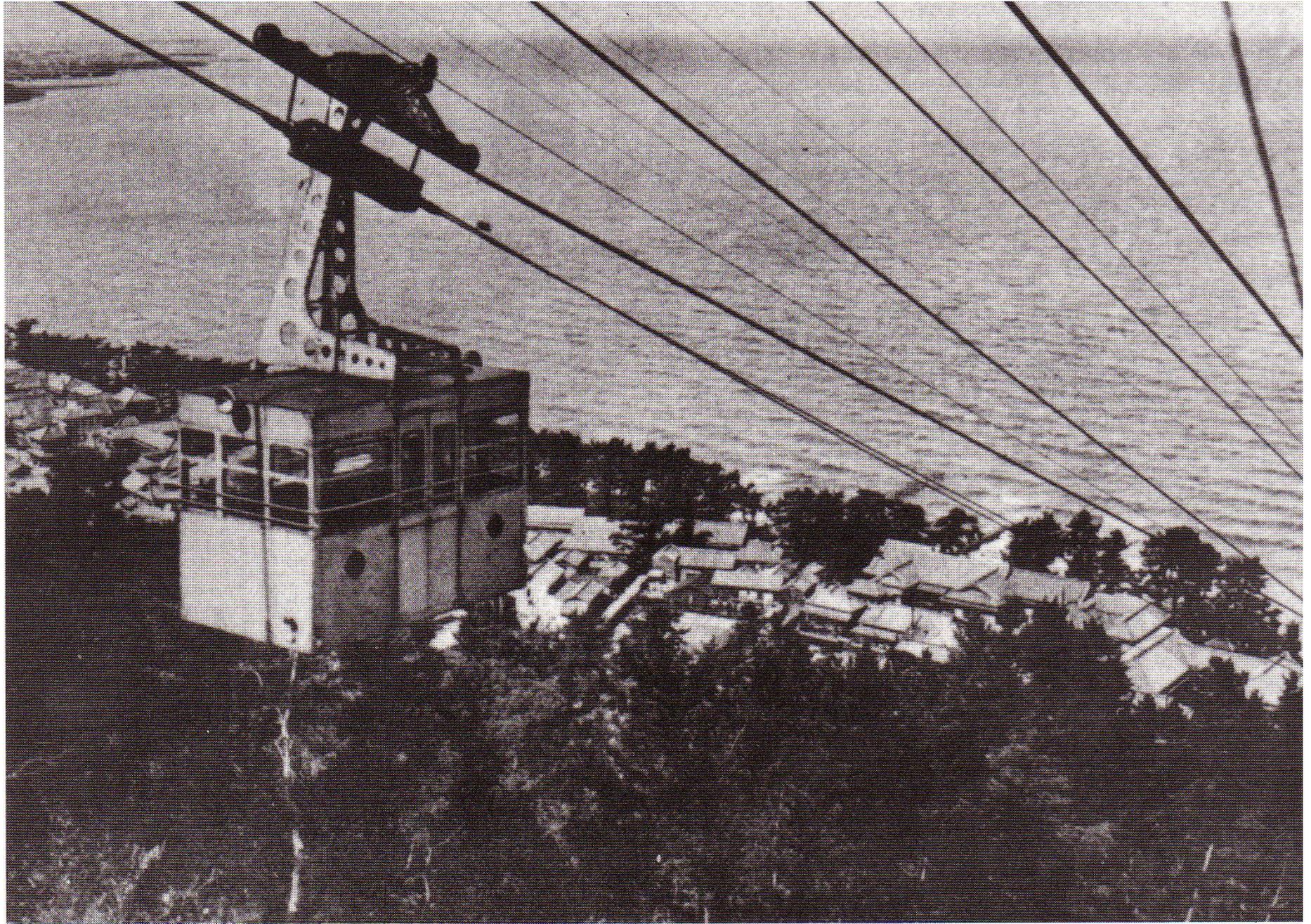
今も真っ直ぐな線路跡が道路として残っている



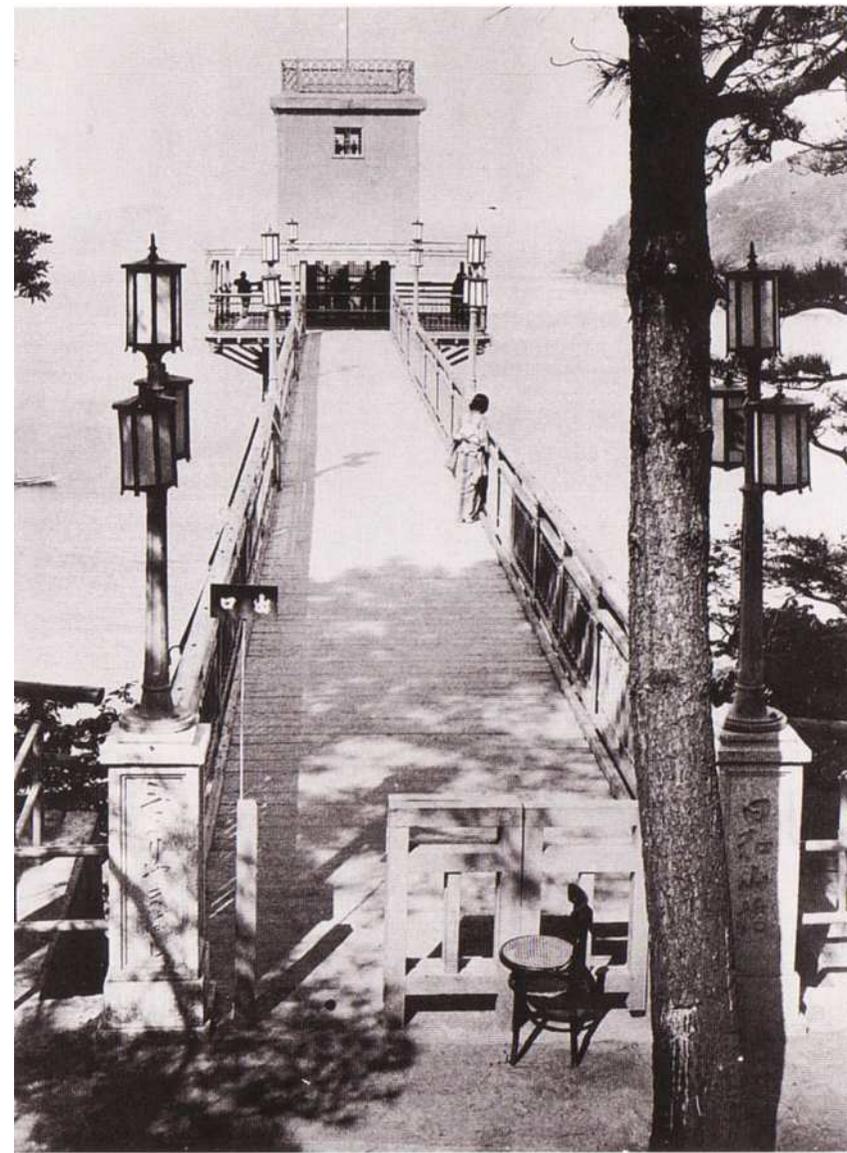
鉄路ではありませんが、二見には音無山のロープウェイがありました



正式名称「二見浦旅客索道 ふたみのうらりよきやくさくどう」1932昭和7年開業 1942昭和17年資材供出のため廃線



鳥羽の日和山にはエレベーターもありました



1833昭和8年日和山エレベーター(株)設立、翌1934昭和9年観光用エレベーター完成 高さ51m
1943昭和18年太平洋戦争に伴う電力消費規制により運転休止、1947昭和22年営業再開
1974昭和49年1月6日鳥羽駅の火災で焼失 1982昭和57年解体撤去

話は元に戻りますが……、1916大正05年 太田小三郎 没 71歳

「これからは鉄道の時代だ」と語っていた小三郎は伊勢電気鉄道(株)社長として天寿を全うした



久世戸墓地 妻くに

小三郎

(養嗣)光熙

そして、小三郎の遺志を継承して 光熙^{みつひろ}が

大正7年 伊勢電気鉄道(宮川電気 改め)社長就任 大正14年 京阪電鉄社長を兼務

1874明治7年 光熙 山口県で勤王の志士 大庭景明の四男として誕生 翌8年、子がなかった小三郎の養嗣となる

4回シリーズのまとめ

小三郎は、
全国から伊勢神宮を参詣してもらうために交通を整備し、
電力発電を行って「神都に相応しい町創り」を行いました

現在は、

海水温の上昇による気候変動や農水産物への影響など、
地球温暖化の総合的な解決が緊急の課題です

全世界から伊勢神宮を参詣してもらうために交通を整備しながら、
二酸化炭素を排出しない「神都に相応しい町創り」が求められています

小三郎の業績を受け継いで

提案です……

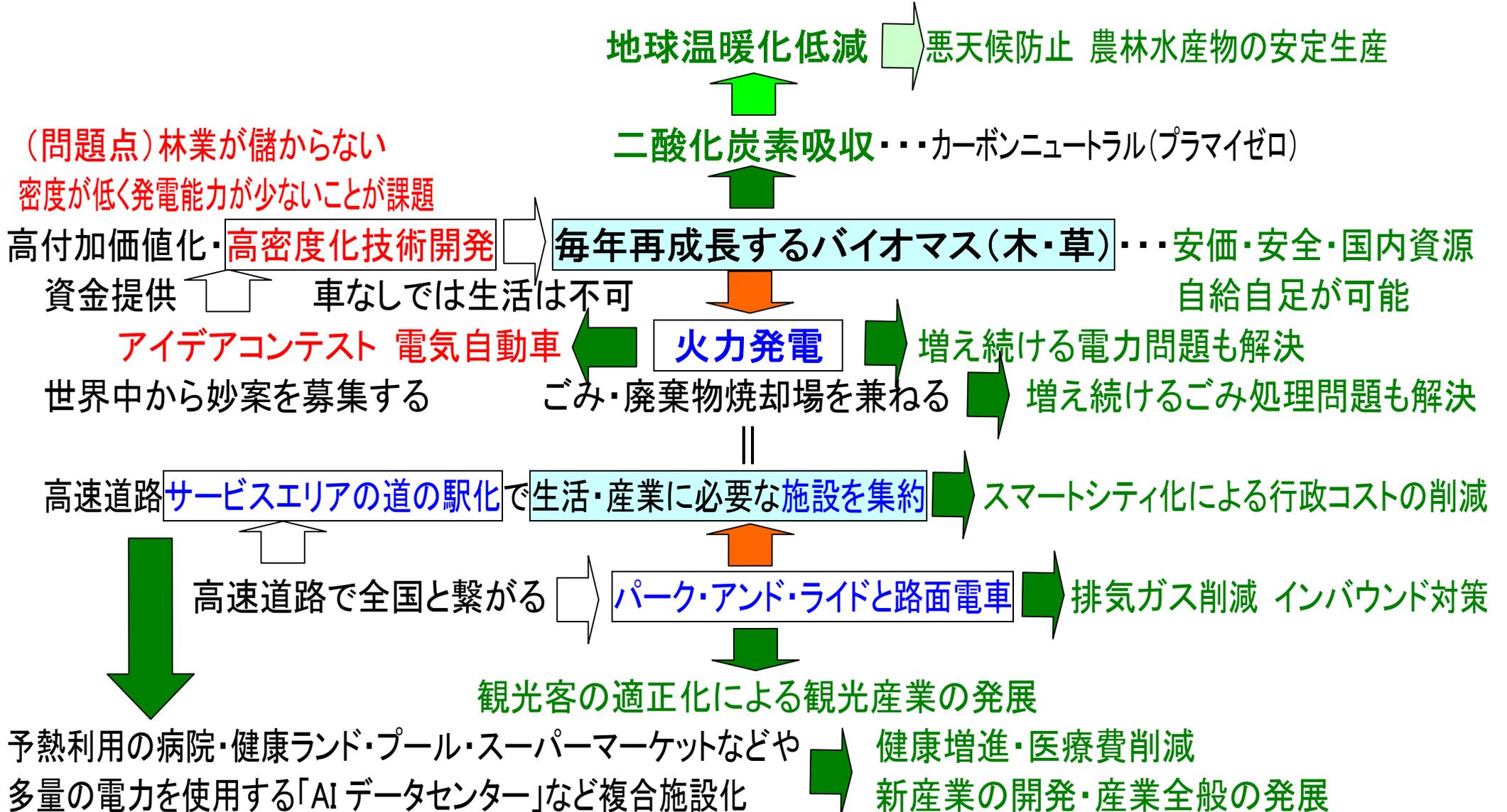
イメージとしては

豊かな伊勢の森などから排出される草や材木(バイオマス)を燃料として
小規模な**火力発電**によりエネルギーの地産地消を行い、
高速道路と直結する、**火力発電所**を中心とした小さな町づくりをして
伊勢神宮やそれらの町を路面電車 LRT や電気バスで結合する

火力発電の町だった伊勢は、地球温暖化低減のために何ができるか？

太陽光発電は日中しか働かず、曇りでも発電能力は減少 太陽光パネル製造エネルギー→発電エネルギー
二酸化酸素を排出しないけれど「原子力発電」は危険がいっぱい 風力発電は自然を破壊する？

「火力発電」は二酸化炭素を排出する 時代遅れの技術だと言われているけれど？



こんなことができたらなあ、と願っています

(完)

ご静聴ありがとうございました

謝 辞

郷土史研究家 飯田良樹氏

伊勢郷土史研究家 山田修司氏 (ブログ「いにしへの伊勢」)

伊勢志摩さいこう会 飯田ヨシ子氏

には資料の提供、ならびに、ご指導をいただきました

参 考 文 献

「神苑会と宇治山田 -近代的聖地の形成をめぐる-」 ジョン・ブリー

伊勢神宮の近現代史「神都物語」 ジョン・ブリー、神都計画とその背景 阿形次基

伊勢度会人物誌、神都名家集、宇治山田市史、最新 伊勢市史、

幕末秘史 英彦山殉難録、勢伊志紀顔見評判記: 諸名士大一座 Wikipedia コトバンク

昭和61年 ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 伊勢 二見 小俣 (株)国書刊行会

平成4年 図説 伊勢・志摩歴史<下巻> (株)郷土出版社

平成2年 目で見る 伊勢・志摩の100年 (株)郷土出版社 ほか